

JP 2006-507355 A 2006.3.2

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公報番号

特表2006-507355

(P2006-507355A)

(43) 公表日 平成18年3月2日(2006.3.2)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
C07D 239/22 (2006.01)	C07D 239/22 C S P	4C063
A61K 31/505 (2006.01)	A61K 31/505	4C086
A61K 31/506 (2006.01)	A61K 31/506	
A61K 31/5377 (2006.01)	A61K 31/5377	
A61P 9/00 (2006.01)	A61P 9/00	
審査請求 未請求 予審査請求 未請求 (全 82 頁) 最終頁に続く		
(21) 出願番号 特願2004-571738 (P2004-571738)	(71) 出願人 503412148 バイエル・ヘルスケア・アクチングゼル シャフト Bayer HealthCare AG ドイツ連邦共和国 51368 レーフエルク 一ゼン	
(36) (22) 出願日 平成15年8月28日 (2003.8.28)	(74) 代理人 100062144 弁理士 吉山 葉	
(39) 鋏記文提出日 平成17年5月9日 (2005.5.9)	(74) 代理人 100067035 弁理士 岩崎 光隆	
(86) 國際出願番号 PCT/EP2003/009525	(74) 代理人 100064610 弁理士 宇崎 正二	
(87) 國際公開番号 WO2004/024700	(74) 代理人 100072730 弁理士 小島 一晃	
(87) 國際公開日 平成16年3月25日 (2004.3.25)	最終頁に続く	
(31) 優先権主張番号 0220962.5		
(32) 優先日 平成14年9月10日 (2002.9.10)		
(33) 優先権主張国 英国(GB)		
(31) 優先権主張番号 0226808.6		
(32) 優先日 平成14年11月14日 (2002.11.14)		
(33) 優先権主張国 英国(GB)		
(31) 優先権主張番号 0315870.6		
(32) 優先日 平成15年7月7日 (2003.7.7)		
(33) 優先権主張国 英国(GB)		

(54) [発明の名称] 急性および慢性炎症、虚血およびリモデリング過程に対する治療剤としてのビリミジノン誘導体

(57) [要約]

本発明は、新規なヘテロ環誘導体、その製造方法、および薬剤、特に、慢性閉塞性肺疾患を治療するための薬剤としてその使用に関する。

(2)

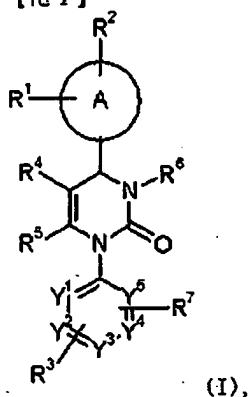
JP 2006-507355 A 2006.3.2

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一般式 (I) :

【化 1】



10

20

30

40

50

【式中、

Aは、アリール環またはヘテロアリール環を表し、
 R¹、R²およびR³は、互に独立して、水素、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁—C₆—アルキル、ヒドロキシまたはC₁—C₆—アルコキシ（前記において、C₁—C₆—アルキルおよびC₁—C₆—アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁—C₆—アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい）を表し、

R⁴は、トリフルオロメチルカルボニル、C₁—C₆—アルキルカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、C₁—C₆—アルケノキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーまたはジーC₁—C₆—アルキルアミノカルボニル、C₆—C₁—アリールアミノカルボニル、アリールカルボニル、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリルまたはシアノ（前記において、C₁—C₆—アルキルカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₆—アルキルアミノカルボニルは、C₆—C₁—シクロアルキル、ヒドロキシ、C₁—C₆—アルコキシ、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₆—アルキルアミノカルボニル、C₁—C₆—アルキルカルボニルアミノ、(C₁—C₆—アルキルカルボニル)—C₁—C₆—アルキルアミノ、シアノ、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₆—アルキルアミノ、ヘテロアリール、ヘテロシクリルおよびトリー(C₁—C₆—アルキル)—シリルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で更に置換されてもよく、そして、前記において、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、更にC₁—C₆—アルキルで置換されてもよい）を表し、

R⁵は、ハロゲン、ヒドロキシ、C₁—C₆—アルコキシ、C₁—C₆—アルケノキシ、C₁—C₆—アルキルチオ、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₆—アルキルアミノ、アリールアミノ、ヒドロキシカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニルおよび基-O—C₁—C₆—アルキル-O-C₁—C₆—アルキルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよいC₁—C₆—アルキルを表すか、または、

R⁶は、アミノを表し、

R⁷は、水素、C₁—C₆—アルキル、ホルミル、アミノカルボニル、モノーまたはジーC₁—C₆—アルキルアミノカルボニル、C₆—C₁—シクロアルキルカルボニル、C₁—C₆—アルキルカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、N—(C₁—C₆—

(3)

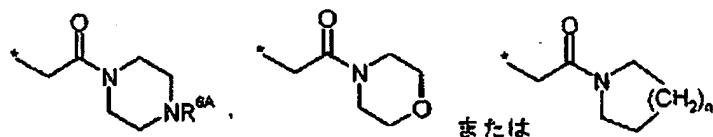
JP 2006-507355 A 2006.3.2

アルキルスルホニル) - アミノカルボニル、N-(C₁ - C₄ - アルキルスルホニル) - N-(C₁ - C₄ - アルキル) - アミノカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリル、ヘテロアリールカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル(前記において、C₁ - C₄ - アルキル、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₄ - アルキルカルボニル、C₁ - C₄ - アルコキシカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、アリール、ヘテロアリール、ヒドロキシ-C₁ - C₄ - アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、C₁ - C₄ - アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノ、C₁ - C₄ - アルキルカルボニルアミノ、トリ- (C₁ - C₄ - アルキル) - シシリル、シアノ、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₄ - アルコキシ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニルおよびハロゲンから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表すが、

または、

R⁶ は、式：

【化2】



20

(式中、

R⁶ は、水素およびC₁ - C₄ - アルキルから成る群から選択され、そして、

nは、1または2の整数を表す)の部分を表し、

R⁷ は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁ - C₄ - アルキル、ヒドロキシまたはC₁ - C₄ - アルコキシ(前記において、C₁ - C₄ - アルキルおよびC₁ - C₄ - アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁ - C₄ - アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表し、

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴ およびY⁵ は、互いに独立して、CHまたはNを表し、ここで、この環は、O、1または2個の重素原子を含む]の化合物およびその塩、水和物および/または溶媒和物、およびその互変異性体。

【請求項2】

Aは、アリール環またはヘテロアリール環を表し、

R¹、R² およびR³ は、互いに独立して、水素、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁ - C₄ - アルキル、ヒドロキシまたはC₁ - C₄ - アルコキシ(前記において、C₁ - C₄ - アルキルおよびC₁ - C₄ - アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁ - C₄ - アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表し、R⁴ は、C₁ - C₄ - アルキルカルボニル、C₁ - C₄ - アルコキシカルボニル、C₁ - C₄ - アルケノキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ-またはジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₄ - アリールアミノカルボニル、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリルまたはシアノ(前記において、C₁ - C₄ - アルキルカルボニル、C₁ - C₄ - アルコキシカルボニル、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニルは、C₁ - C₄ - シクロアルキル、ヒドロキシ-C₁ - C₄ - アルコキシ、C₁ - C₄ - アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₄ - アルキルカルボニルアミノ、アミノ、モノ-およびジ-C₁ - C₄ - アルキルアミノ、ヘテロアリール、ヘテロシクリルおよびトリ-

30

40

50

(4)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

(C₁ - C₆、-アルキル) -シリルから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で更に置換されてもよい) を表し、

R⁵ は、ハロゲン、ヒドロキシ、C₁ - C₆、-アルコキシ、C₁ - C₆、-アルケノキシ、C₁ - C₆、-アルキルチオ、アミノ、モノ-およびジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノ、アリールアミノ、ヒドロキシカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシカルボニルおよび基-O-C₁ - C₆、-アルキル-O-C₁ - C₆、-アルキルから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい C₁ - C₆、-アルキルを表すか、

または、

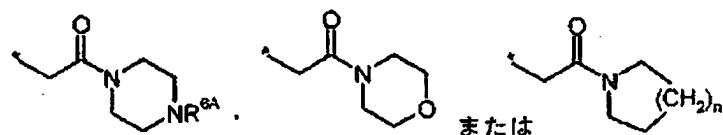
R⁵ は、アミノを表し、

R⁶ は、水素、C₁ - C₆、-アルキル、ホルミル、アミノカルボニル、モノ-またはジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₆、-シクロアルキルカルボニル、C₁ - C₆、-アルキルカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシカルボニル、N-(C₁ - C₆、-アルキルスルホニル) - アミノカルボニル、N-(C₁ - C₆、-アルキルスルホニル) - N-(C₁ - C₆、-アルキル) - アミノカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリル、ヘテロアリールカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル(前記において、C₁ - C₆、-アルキル、モノ-およびジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₆、-アルキルカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、アリール、ヘテロアリール、ヒドロキシ、C₁ - C₆、-アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ-およびジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノ-およびジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノ、C₁ - C₆、-アルキルカルボニルアミノ、トリ-(C₁ - C₆、-アルキル) - シシリル、シアノ、モノ-およびジ-C₁ - C₆、-アルキルアミノ-C₁ - C₆、-アルキルアミノカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシ-C₁ - C₆、-アルキルアミノカルボニルおよびハロゲンから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい) を表すか、

または、

R⁶ は、式：

【化3】



30

(式中、

R^{6A} は、水素および C₁ - C₆、-アルキルから成る群から選択され、そして、

n は、1 または 2 の整数を表す) の部分を表し、

R⁷ は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁ - C₆、-アルキル、ヒドロキシまたは C₁ - C₆、-アルコキシ(前記において、C₁ - C₆、-アルキルおよび C₁ - C₆、-アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよび C₁ - C₆、-アルコキシから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい) を表し、

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴ および Y⁵ は、互いに独立して、C₁H₂ または N を表し、ここで、この環は、0、1 または 2 個の窒素原子を含む、請求項 1 記載の一般式(I) の化合物。

【請求項 3】

A は、フェニル、ナフチルまたはピリジル環を表し、

R¹、R² および R³ は、互いに独立して、水素、フルオロ、クロロ、ブロモ、ニトロ、シアノ、メチル、エチル、トリフルオロメチルまたはトリフルオロメトキシを表し、

R⁴ は、C₁ - C₆、-アルキルカルボニル、C₁ - C₆、-アルコキシカルボニル、ヒドロ

40

50

(5)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

キシカルボニル、アミノカルボニル、モノーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニルまたはシアノ（前記において、C₁—C₆—アルキルカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、およびモノーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニルは、C₃—C₆—シクロアルキル、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、アミノ、モノーまたはジーC₁—C₄—アルキルアミノ、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい）を表し、

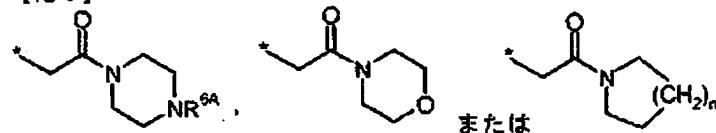
R⁵は、メチルまたはエチルを表し、

R⁶は、水素、C₁—C₄—アルキル、モノーまたはジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、C₁—C₆—アルキルカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル（前記において、C₁—C₆—アルキルおよびC₁—C₆—アルコキシカルボニルは、ヘテロアリール、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、C₁—C₆—アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、シアノ、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい）を表すか、

または、

R⁶は、式：

【化4】



20

(式中、

R^{6A}は、水素およびC₁—C₄—アルキルから成る群から選択され、

そして、

nは、1または2の整数を表す)の部分を表し、

R⁷は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル、トリフルオロメトキシ、メチルまたはエチルを表し、

30

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴およびY⁵は、それぞれ、CHを表す、請求項1または2記載の一般式(I)の化合物。

【請求項4】

Aは、フェニルまたはピリジル環を表し、

R¹およびR³は、それぞれ、水素を表し、

R²は、フルオロ、クロロ、ブロモ、ニトロまたはシアノを表し、

R⁴は、シアノ、C₁—C₄—アルキルカルボニルまたはC₁—C₄—アルコキシカルボニル（前記において、C₁—C₄—アルコキシカルボニルは、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、C₁—C₄—アルコキシカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノ、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルから成る群から選択される基で置換されてもよい）を表し、

40

R⁵は、メチルを表し、

R⁶は、水素、C₁—C₄—アルキル、モノーまたはジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、C₁—C₆—アルキルカルボニルまたはC₁—C₆—アルコキシカルボニル（前記において、C₁—C₆—アルキルおよびC₁—C₆—アルコキシカルボニルは、ヘテロアリール、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノから成る群から選択される基で置換されてもよい）を表すか、

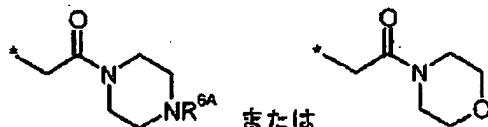
50

(6)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

または、
R⁶ は、式：

【化5】



または

(式中、

10

R^{6A} は、水素およびメチルから成る群から選択される) の部分を表し、R⁷ は、トリフルオロメチルまたはニトロを表し、

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴ および Y⁵ は、それぞれ、C₁H₂を表す、請求項 1、2 または 3 記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 5】

A がフェニルまたはピリジルである、請求項 1～4 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 6】

R¹ が水素である、請求項 1～5 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

20

【請求項 7】

R¹ がシアノである、請求項 1～6 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 8】

R³ が水素である、請求項 1～7 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 9】

R⁴ が希望によりヒドロキシで置換される C₁～C₄ アルコキシカルボニルであるか、または、R⁴ が C₁～C₄ アルキルカルボニルである、請求項 1～8 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 10】

R⁵ がメチルである、請求項 1～9 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 11】

R⁵ が水素である、請求項 1～10 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

【請求項 12】

R⁷ がトリフルオロメチルまたはニトロである、請求項 1～11 の少なくとも一つに記載の一般式 (I) の化合物。

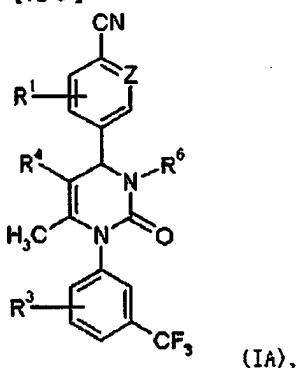
【請求項 13】

一般式 (IA) :

(7)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【化6】



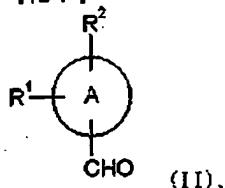
(式中、

Zは、C HまたはNを表し、そして、
R¹、R³、R⁴およびR⁶は、請求項1～12に示す意味を有する)の化合物。

【請求項14】

一般式(II)：

【化7】

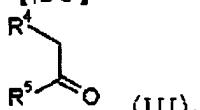


(式中、

A、R¹およびR²は請求項1～13に示す意味を有する)の化合物を、一般式(III)：

30

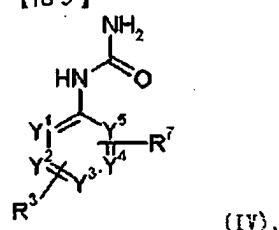
【化8】



(式中、

R⁴およびR⁵は請求項1～13に示す意味を有する)の化合物および一般式(IV)：

【化9】



(式中、

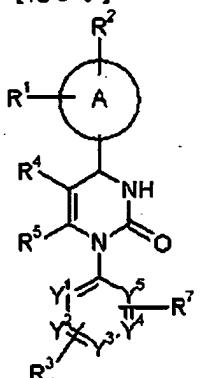
R³、R⁷およびY¹からY⁵は請求項1～13に示す意味を有する)の化合物と、酸の存在下で三成分/一工程反応で縮合させるか、または順々に縮合させて、一般式(IV)：

50

(3)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化10】



(IB).

10

〔式中、

A、R¹からR⁵、R⁷およびY¹からY⁴は請求項1～13に示す意味を有する)の化合物を生成させ、所望により統いて一般式(ⅠB)の化合物を一般式(V)：

R⁶ - X (V),

〔式中、

R⁶ * は請求項1～13に示すR⁶の意味を有するが、ただし水素を意味しない、そしてXはハロゲン、トシラート、メシラートまたはスルファートのような脱離基を表す)の化合物と塩基の存在下で反応させることによる、請求項1～13に定義される一般式(I)または(IA)、それぞれの化合物の合成方法。

20

【請求項15】

請求項1～13に定義される一般式(I)または(IA)の少なくとも一つの化合物と薬理学的に許容される賦形剤を含む組成物。

30

【請求項16】

急性および慢性炎症、虚血および/またはリモデリング過程を治療するための請求項1～5記載の組成物。

【請求項17】

請求項1～13に定義される一般式(I)または(IA)の化合物を慣用の補助剤とともに適切な適用形態にすることを特徴とする請求項15および16記載の組成物の製造方法。

【請求項18】

薬剤を製造するための請求項1～13に定義される一般式(I)または(IA)の化合物の使用。

【請求項19】

急性および慢性炎症、虚血および/またはリモデリング過程を治療する薬剤を製造するための請求項18記載の使用。

40

【請求項20】

過程が、慢性閉塞性肺疾患、急性冠症候群、急性心筋梗塞または心不全の形成である請求項19記載の使用。

【請求項21】

好中球エラスターを阻害する量の請求項1～13のいずれかに記載の少なくとも一つの化合物を投与することによりヒトおよび動物の慢性閉塞性肺疾患、急性冠症候群、急性心筋梗塞または心不全の形成を抑制する方法。

【発明の詳細な説明】

50

【発明の詳細な説明】

【0001】

本発明は、新規なヘテロ環誘導体、その製造方法、および薬剤、特に、慢性閉塞性肺疾患、急性冠症候群、急性心筋梗塞および心不全の形成 (development) を治療するための薬剤としてその使用に関する。

【0002】

動脈、韌帯の一部、肺および心臓のような組織では、すべての蛋白質含有量のなかで、かなり大きい割合を占めている纖維性蛋白であるエラスタンは、加水分解されうるか、あるいは、エラスターとして分類される一群の選択された酵素によって破壊される。ヒトの好中球エラスター (HNE) としても呼ばれているヒト白血球エラスター (HLE, EC 3.4.21.37) は、グリコシリ化された強塩基性のセリンプロテアーゼであり、ヒト多形核白血球 (PMN) のアズール顆粒内に発見されている。HNEは、活性化されたPMNから放出され、急性および慢性炎症疾患の病因に因果関係をもって関与してきた。HNEは、エラスタンおよびコラーゲンを含む広範囲のマトリックス蛋白 (matrix proteins) を分解する (degrading) ことができ、そして、結合組織でのこうした活動に加えて、HNEは、IL-8 遺伝子発現のアップレグレーション (upregulation) 、浮腫形成、粘液腺過形成 (mucus gland hyperplasia) および粘液過分泌 (mucus hypersecretion) を含む広範囲の炎症作用を有している。それは、また、たとえば、急性心筋梗塞後の心臓内で、または心不全の形成の間、コラーゲン構造を加水分解し、これに伴って、内皮細胞を損傷し、内皮に接着する好中球の血管外逸走を促進させ、接着プロセス自体に影響を与えることによって、組織損傷のメディエーターの役目を果たす。

【0003】

HNEが、影響を及ぼしていると信じられている肺疾患には、肺線維症、肺炎、急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) 、喫煙によって引き起こされる気腫を含む肺気腫、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) および囊胞性線維症が含まれる。心臓血管疾患の場合、HNEは、急性心筋梗塞後の心筋不全症に進行する虚血組織損傷の產生を増大させることおよび心不全の症状の形成 (development of heart failure) の間におこるリモデリング (構造変化) 過程 (プロセス) (remodelling processes) に関与している。HNEは、また、好中球の関与が関係している関節リウマチ、アテローム硬化症、脳損傷、癌および関連する状態にも因果的に関与してきた。

【0004】

したがって、HLE活性のインヒビターは、多くの炎症性疾患、殊に慢性閉塞性肺疾患 [R. A. Stockley, 好中球とプロテアーゼ/アンチプロテアーゼ不均衡 (Neutrophils and protease/antiprotease imbalance), Am. J. Respir. Crit. Care 160, S49-S52 (1999)] の治療に潜在的に有用であろう。HLE活性のインヒビターは、また、急性心筋症候群 (acute myocardial syndrome)、不安定狭心症、急性心筋梗塞および冠動脈バイパス術 (CABG) の治療 [C. P. Tiefenbacher et al., エラスターを阻害すると、ラットの心臓での反復性虚血および心筋梗塞の後の心筋機能を改善する (Inhibition of elastase improves myocardial function after repetitive ischaemia and myocardial infarction in the rat heart), Eur. J. Physiol. 433, S563-S570 (1997); Dinerman et al., 不安定狭心症および急性心筋梗塞における好中球エラスター放出の増加 (Increased neutrophil elastase release in unstable angina pectoris and acute myocardial infarction), J. Am. Coll. Cardiol. 15, 1559-1563 (1990)], 心不全の形成の治療 [S. J. Gilbert et al., 犬拡張型心筋症におけるプロマトリックスメタロプロテイナーゼ-9および好中球エラスターの発現の増加 (Incres-

10

20

30

40

50

(10)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

eased expression of promatrix metalloproteinase-9 and neutrophil elastase in canine dilated cardiomyopathy), Cardiovasc. Res. 34, S377-S383 (1997)] およびアテローム硬化症の治療 [Dolley et al., ヒトアテローム硬化症plaque中の好中球エラスター (Neutrophil elastase in human atherosclerotic plaque), Circulation 107, 2829-2836 (2003)] に潜在的に有用でありうる。

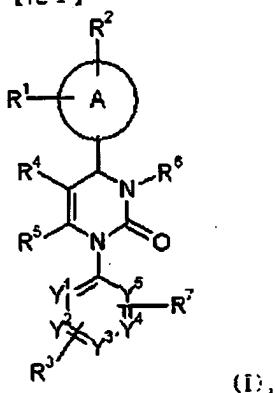
【0005】

5-エトキシカルボニル-1-フェニル-6-メチル-4-(3-ニトロフェニル)-¹⁰
3,4-ジヒドロピリミジン-2(1H)-オング、J. Heterocyclic Chem. 38, 1051 (2001) に記述されている。この化合物の薬理活性については言及されていない。

【0006】

本発明は、一般式(I) :

【化1】



20

30

【式中、

Aは、アリール環またはヘテロアリール環を表し、
R¹、R²およびR³は、互いに独立して、水素、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁-C₆-アルキル、ヒドロキシまたはC₁-C₆-アルコキシ（前記において、C₁-C₆-アルキルおよびC₁-C₆-アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁-C₆-アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてよい）を表し、

R⁴は、トリフルオロメチルカルボニル、C₁-C₆-アルキルカルボニル、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、C₁-C₆-アルケノキシカルボニル(C₁-C₆-alkenoxycarbonyl)、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーまたはジ-C₁-C₆-アルキルアミノカルボニル、C₁-C₆-アリールアミノカルボニル、アリールカルボニル、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリルまたはシアノ（前記において、C₁-C₆-アルキルカルボニル、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、モノーおよびジ-C₁-C₆-アルキルアミノカルボニルは、C₁-C₆-シクロアルキル、ヒドロキシ-C₁-C₆-アルコキシ、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジ-C₁-C₆-アルキルアミノカルボニル、C₁-C₆-アルキルカルボニルアミノ、(C₁-C₆-アルキルカルボニル)-C₁-C₆-アルキルアミノ、シアノ、アミノ、モノーおよびジ-C₁-C₆-アルキルカルボニル)、ヘテロアリール、ヘテロシクリルおよびトリー(C₁-C₆-アルキル)シリルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で更に

40

50

(11)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

置換されてもよく、そして、前記において、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、更にC₁—C₄—アルキルで置換されてもよい)を表し、

R⁵は、ハロゲン、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、C₁—C₄—アルケノキシ、C₁—C₄—アルキルチオ、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノ、アリールアミノ、ヒドロキシカルボニル、C₁—C₄—アルコキシカルボニルおよび基—O—C₁—C₄—アルキル—O—C₁—C₄—アルキルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよいC₁—C₄—アルキルを表すか、

または、

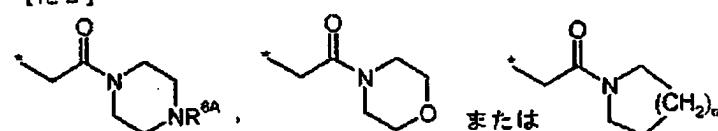
R⁵は、アミノを表し、

R⁶は、水素、C₁—C₄—アルキル、ホルミル、アミノカルボニル、モノーまたはジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、C₁—C₄—シクロアルキルカルボニル、C₁—C₄—アルキルカルボニル、C₁—C₄—アルコキシカルボニル、N—(C₁—C₄—アルキルスルホニル)—アミノカルボニル、N—(C₁—C₄—アルキルスルホニル)—N—(C₁—C₄—アルキル)—アミノカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリル、ヘテロアリールカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル(前記において、C₁—C₄—アルキル、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、C₁—C₄—アルキルカルボニル、C₁—C₄—アルコキシカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、アリール、ヘテロアリール、ヒドロキシ、C₁—C₄—アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、C₁—C₄—アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノ、C₁—C₄—アルキルカルボニルアミノ、トリ—(C₁—C₄—アルキル)—シリル、シアノ、N—(モノーおよびジーC₁—C₄—アルキルアミノ—C₁—C₄—アルキル)—アミノカルボニル、N—(C₁—C₄—アルコキシ—C₁—C₄—アルキル)—アミノカルボニルおよびハロゲンから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表すか、

または、

R⁶は、式:

【化2】



19

20

30

(式中、

R^{6A}は、水素およびC₁—C₄—アルキルから成る群から選択され、

そして、

nは、1または2の整数を表す)の部分を表し、

R⁷は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁—C₄—アルキル、ヒドロキシまたはC₁—C₄—アルコキシ(前記において、C₁—C₄—アルキルおよびC₁—C₄—アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁—C₄—アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表し、

40

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴およびY⁵は、互いに独立して、C₁HまたはNを表し、ここで、この環は、0、1または2個の窒素原子を含む]の化合物に関する。

【0007】

本発明による化合物は、また、その塩、水和物および/または溶媒和物の形で存在することも可能である。

【0008】

生理学的に許容される塩が、本発明では好ましい。

50

(12)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【0009】

本発明による生理的に許容される塩は、本化合物(1)を従来からこうした目的のために使用されている無機あるいは有機の塩基または酸と反応させることによって一般的に入手可能である非毒性塩である。化合物(1)の医薬的に許容される塩は制限されないが、その例としては、たとえば、リチウム、カリウムおよびナトリウム塩であるアルカリ金属塩、マグネシウムおよびカルシウム塩のようなアルカリ土類金属塩、たとえば、トリエチルアンモニウム塩のような四級アンモニウム塩、酢酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、安息香酸塩、二炭酸塩(dicarbonates)、二硫酸塩(disulphates)、二酒石酸塩(ditartrates)、ホウ酸塩、臭化物(bromides)、炭酸塩、塩化物(chlorides)、クエン酸塩、二塩酸塩、フマール酸塩、グルコン酸塩、グルタミン酸塩、ヘキシルレゾルシン酸塩(hexyl resorcinates)、臭化水素酸塩(ヒドロプロミド:hydrobromides)、塩酸塩、ヒドロキシナフトアート(hydroxynaphthoates)、ヨウ化物(iodides)、イソチオネート(isothionate)s)、乳酸塩、ラウリン酸塩、リンゴ酸塩、マレイン酸塩、マンデル酸塩、メシル酸塩、臭化メチル(methylbromides)、メチルニトラート(methylnitrates)、メチルスルファート(methylsulphates)、硝酸塩、オレイン酸塩、シウ酸塩、パルミチン酸塩、パンテン酸塩、磷酸塩、二磷酸塩、ポリガラグツロ酸塩、サルチル酸塩、ステアリン酸塩、硫酸塩、コハク酸塩、酒石酸塩、トリル酸塩、パレリアン酸塩、および医薬目的に用いられる他の塩が含まれる。

【0010】

本発明化合物またはその塩の水和物は、たとえば、ヘミー、モノー、または二水和物の20のような本化合物の水との化学量論的構成物(stoichiometric compositions)である。

【0011】

本発明化合物またはその塩の溶媒和物は、本化合物の溶媒との化学量論的構成物である。

【0012】

本発明は、本発明化合物およびその個々の塩のそれぞれのエナンチオマーまたはジアステレオマーならびにその対応するラセミ体またはジアステレオマー混合物(diastereomeric mixtures)のどちらも含む。更に、本発明によれば、上記に述べた化合物の中で可能性のある互変異性体のすべてが含まれる。ジアステレオマー混合物は、クロマトグラフィーによる方法によって、分離してそれぞれの異性体にすることができる。ラセミ体は、キラル相に対するクロマトグラフィーによる方法または分割のいずれかによって分割してそれぞれエナンチオマーにすることができる。

【0013】

本発明では、別途述べない限り、置換基は、一般に次の意味を有する：

【0014】

アルキルは、一般的には、1から6個まで、好ましくは、1から4個までの炭素原子を有する直鎖または分枝状の炭化水素基を表す。例は制限されないが、例としては、メチル、エチル、n-ブロビル、イソブロビル、n-ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、イソペンチル、ヘキシル、イソヘキシルが含まれる。同じことが、アルコキシ、アルキルアミノ、アルコキシカルボニルおよびアルコキシカルボニルアミノのような基にも適用される。

【0015】

アルコキシは、例証的に且つ好ましくは、メトキシ、エトキシ、n-ブロボキシ、イソブロボキシ、tert-ブトキシ、n-ペントキシおよびn-ヘキソキシを表す。

【0016】

アルキルカルボニルは、一般的には、結合する部位にカルボニル官能基を有する、1から6個まで、好ましくは1から4個までの炭素原子を有する直鎖または分枝状の炭化水素基を表す。例は制限されないが、例としては、ホルミル、アセチル、n-ブロビオニル、n-ブチリル、イソブチリル、ビバロイル、n-ヘキサノイルが含まれる。

【0017】

50

(13)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

アルコキシカルボニルは、例証的に且つ好ましくは、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、*n*-ブロボキシカルボニル、イソブロボキシカルボニル、*tert*-ブロトキシカルボニル、*n*-ペントキシカルボニルおよび*n*-ヘキソキシカルボニルを表す。

【0018】

アルキルアミノは、一つまたは二つ（独立して選択される）のアルキル置換基を有するアルキルアミノ基を表し、例証的に且つ好ましくは、メチルアミノ、エチルアミノ、*n*-ブロビルアミノ、イソブロビルアミノ、*tert*-ブチルアミノ、*n*-ペンチルアミノ、*n*-ヘキシルアミノ、*N,N*-ジメチルアミノ、*N,N*-ジエチルアミノ、*N*-エチル-*N*-メチルアミノ、*N*-メチル-*N-n*-ブロビルアミノ、*N*-イソブロビル-*N-n*-ブロビルアミノ、*N-tert*-ブチル-*N*-メチルアミノ、*N*-エチル-*N-n*-ペンチルアミノおよび*N-n*-ヘキシル-*N*-メチルアミノを表す。
10

【0019】

アルキルアミノカルボニルは、一つまたは二つ（独立して選択される）のアルキル置換基を有するアルキルアミノカルボニル基を表し、例証的に且つ好ましくは、メチルアミノカルボニル、エチルアミノカルボニル、*n*-ブロビルアミノカルボニル、イソブロビルアミノカルボニル、*tert*-ブチルアミノカルボニル、*n*-ペンチルアミノカルボニル、*n*-ヘキシルアミノカルボニル、*N,N*-ジメチルアミノカルボニル、*N,N*-ジエチルアミノカルボニル、*N*-エチル-*N*-メチルアミノカルボニル、*N*-メチル-*N-n*-ブロビルアミノカルボニル、*N*-イソブロビル-*N-n*-ブロビルアミノカルボニル、*N-tert*-ブチル-*N*-メチルアミノカルボニル、*N*-エチル-*N-n*-ペンチルアミノカルボニルおよび*N-n*-ヘキシル-*N*-メチルアミノカルボニルを表す。
20

【0020】

アルキルスルホニルは、一般的には、結合の部位にスルホニル官能基を有する1から6個までの、好ましくは、1から4個までの炭素原子を有する直鎖または分枝状の炭化水素基を表す。例は制限されないが、例としては、メチルスルホニル、エチルスルホニル、*n*-ブロビルスルホニル、イソブロビルスルホニル、*n*-ブチルスルホニル、*tert*-ブチルスルホニルが含まれる。

【0021】

シクロアルキルは、一般的には、3から8個まで、好ましくは、3から6個までの炭素原子を有する環状の飽和炭化水素基を表す。例は制限されないが、例としては、シクロブロビル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルおよびシクロヘプチルが含まれる。
30

【0022】

アリール自体およびアリールカルボニル中のアリールは、一般的には、6から14個までの炭素原子を有する 単環から三環式芳香族炭素環基を表し、例証的に且つ好ましくはフェニル、ナフチルおよびフェナントレン基を表す。

【0023】

アリールカルボニルは、例証的に且つ好ましくは、ベンゾイルおよびナフトイル(naphthoyl)を表す。

【0024】

ヘテロアリール自体およびヘテロアリールカルボニル中のヘテロアリールは、一般的には、5から10個までの、好ましくは、5または6個の環原子(ring atoms)を有し、且つS、OおよびNから成る群から選択される5個まで、好ましくは4個までのヘテロ原子を有する芳香族单環もしくは二環式基を表し、例証的に且つ好ましくは、チエニル、フリル、ピロリル、チアゾリル、オキサゾリル、イミダゾリル、オキサジアゾリル、チアジアゾリル、ピリジル、ピリミジル、ピリダジニル、インドリル、インダゾリル、ベンゾフラニル、ベンゾチオフェニル、ベンゾチアゾリル、キノリニル、インキノリニルを表す。
40

【0025】

ヘテロアリールカルボニルは、例証的且つ好ましくは、チエニルカルボニル、フリルカルボニル、ピロリルカルボニル、チアゾリルカルボニル、オキサゾリルカルボニル、イミ
50

(14)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

ダゾリルカルボニル、ビリジルカルボニル、ピリミジルカルボニル、ピリダジニルカルボニル、インドリルカルボニル、インダゾリルカルボニル、ベンゾフラニルカルボニル、ベンゾチオフェニルカルボニル、キノリニルカルボニル、イソキノリニルカルボニルを表す。

【0026】

ヘテロシクリル自体およびヘテロシクリルカルボニル中のヘテロシクリルは、一般的に、4から10個まで、好ましくは、5から8個までの環原子(ring atoms)を有し、かつ3個まで、好ましくは、2個までのN、O、S、SOおよびSO₂から成る群から選択されるヘテロ原子および/またはヘテログループ(hetero groups)を有する單環式または多環式、好ましくは、單環式または二環式の非芳香族であるヘテロ環基(heterocyclic radical)を表す。ヘテロシクリル基は、飽和していてもよいし、一部不飽和であってもよい。例証的に且つ好ましくは、テトラヒドロフラン-2-イル、ピロリジン-1-イル、ピロリジン-2-イル、ピロリジン-3-イル、ピロリニル、ピペリジニル、モルホリニル、ペルヒドロアゼビニル(perhydroazepinyl)のようなO、NおよびSから成る群から選択される2個までのヘテロ原子を有する5から8員環の單環式飽和ヘテロシクリル基が優先される。

【0027】

ヘテロシクリルカルボニルは、例証的に且つ好ましくは、テトラヒドロフラン-2-カルボニル、ピロリジン-1-カルボニル、ピロリジン-2-カルボニル、ピロリジン-3-カルボニル、ピロリンカルボニル、ピペリジンカルボニル、モルホリンカルボニル、ペルヒドロアゼビンカルボニルを表す。

【0028】

ハロゲンは、フッ素、塩素、臭素およびヨウ素を表す。

【0029】

Y¹、Y²、Y³、Y⁴およびY⁵は、C₆HまたはNを表すと述べる場合、C₆Hは、また、置換基R³またはR⁷で置換される環炭素原子(ring carbon atom)も表すものとする。

【0030】

結合手に隣接している記号*は、分子内の結合の部位を示す。

【0031】

別の実施態様の場合、本発明は一般式(I)：

[式中、Aは、アリール環またはヘテロアリール環を表し、R¹、R²およびR³は、互いに独立して、水素、ハロゲン、ニトロ、シアノ、C₁-C₆-アルキル、ヒドロキシまたはC₁-C₆-アルコキシ(前記において、C₁-C₆-アルキルおよびC₁-C₆-アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよびC₁-C₆-アルコキシから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてよい)を表し、

R⁴は、C₁-C₆-アルキルカルボニル、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、C₁-C₆-アルケノキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーまたはジー-C₁-C₆-アルキルアミノカルボニル、C₁-C₆-アリールアミノカルボニル、ヘテロアリールカルボニル、ヘテロシクリルカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリルまたはシアノ(前記において、C₁-C₆-アルキルカルボニル、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、モノーおよびジー-C₁-C₆-アルキルアミノカルボニルは、C₁-C₆-シクロアルキル、ヒドロキシ、C₁-C₆-アルコキシ、C₁-C₆-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジー-C₁-C₆-アルキルアミノ、ヘテロアリール、ヘテロシクリルおよびトリ-(C₁-C₆-アルキル)-シリルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で更に置換されてもよい)を表し、

R⁵は、ハロゲン、ヒドロキシ、C₁-C₆-アルコキシ、C₁-C₆-アルケノキシ、

30

40

50

(15)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

$C_1 - C_6$ - アルキルチオ、アミノ、モノ - およびジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノ、アリールアミノ、ヒドロキシカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカルボニルおよび基 - O - $C_1 - C_6$ - アルキル - O - $C_1 - C_6$ - アルキルから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい $C_1 - C_6$ - アルキルを表すか、

または、

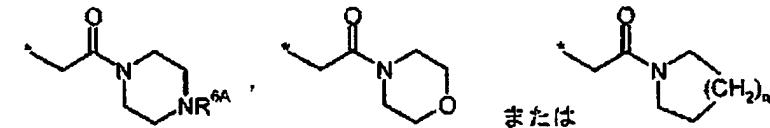
R^5 は、アミノを表し、

R^6 は、水素、 $C_1 - C_6$ - アルキル、ホルミル、アミノカルボニル、モノ - またはジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノカルボニル、 $C_3 - C_6$ - シクロアルキルカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルキルカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカルボニル、N - ($C_1 - C_6$ - アルキルスルホニル) - アミノカルボニル、N - ($C_1 - C_6$ - アルキルスルホニル) - 10 N - ($C_1 - C_6$ - アルキル) - アミノカルボニル、ヘテロアリール、ヘテロシクリル、ヘテロアリールカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル (前記において、 $C_1 - C_6$ - アルキル、モノ - およびジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルキルカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカルボニル、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルは、アリール、ヘテロアリール、ヒドロキシ、 $C_1 - C_6$ - アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ - およびジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノ - およびジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノ、 $C_1 - C_6$ - アルキルカルボニルアミノ、トリ - ($C_1 - C_6$ - アルキル) - シリル、シアノ、N - (モノ - およびジ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノ - $C_1 - C_6$ - アルキル) - アミノカルボニル、N - ($C_1 - C_6$ - アルコキシ - $C_1 - C_6$ - アルキル) 20) - アミノカルボニルおよびハロゲンから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい) を表すか、

または、

R^6 は、式 :

【化 3】



30

(式中、

R^6' は、水素および $C_1 - C_6$ - アルキルから成る群から選択され、

そして、

n は、1 または 2 の整数を表す) の部分を表し、

R^7 は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、 $C_1 - C_6$ - アルキル、ヒドロキシまたは $C_1 - C_6$ - アルコキシ (前記において、 $C_1 - C_6$ - アルキルおよび $C_1 - C_6$ - アルコキシは、更に、ハロゲン、ヒドロキシおよび $C_1 - C_6$ - アルコキシから成る群から選択される 1 から 3 個の同一または異なる基で置換されてもよい) を表し、

そして、

Y^1 、 Y^2 、 Y^3 、 Y^4 および Y^5 は、互いに独立して、CH または N を表し、ここで、この環は、0、1 または 2 個の窒素原子を含む] の化合物に関する。

【0032】

別の実施態様の場合、本発明は一般式 (I) :

【式中、A は、フェニル、ナフチルまたはピリジル環を表し、

R^1 、 R^2 および R^3 は、互いに独立して、水素、フルオロ、クロロ、ブロモ、ニトロ、シアノ、メチル、エチル、トリフルオロメチルまたはトリフルオロメトキシを表し、

R^4 は、 $C_1 - C_6$ - アルキルカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノ - $C_1 - C_6$ - アルキルアミノカルボニルまたはシアノ (前記において、 $C_1 - C_6$ - アルキルカルボニル、 $C_1 - C_6$ - アルコキシカ 50

40

(15)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

ルポニルおよびモノ- C_1-C_4 -アルキルアミノカルボニルは、 C_3-C_8 -シクロアルキル、ヒドロキシ、 C_1-C_4 -アルコキシ、 C_1-C_4 -アルコキシカルボニル、アミノ、モノーまたはジ- C_1-C_4 -アルキルアミノ、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表し、

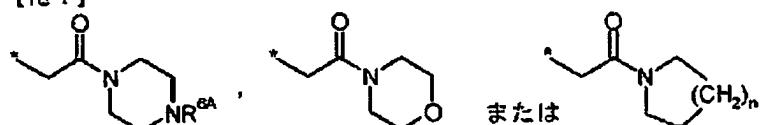
R^5 は、メチルまたはエチルを表し、

R^6 は、水素、 C_1-C_4 -アルキル、モノーまたはジ- C_1-C_4 -アルキルアミノカルボニル、 C_1-C_4 -アルキルカルボニル、 C_1-C_6 -アルコキシカルボニルまたはヘテロシクリルカルボニル(前記において、 C_1-C_6 -アルキルおよび C_1-C_6 -アルコキシカルボニルは、ヘテロアリール、ヒドロキシ、 C_1-C_4 -アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、 C_1-C_6 -アルコキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジ- C_1-C_4 -アルキルアミノカルボニル、シアノ、アミノ、モノーおよびジ- C_1-C_4 -アルキルアミノから成る群から選択される1から3個の同一または異なる基で置換されてもよい)を表すか、

または、

R^6 は、式：

【化4】



20

(式中、

R^{6A} は、水素および C_1-C_4 -アルキルから成る群から選択され、

そして、

n は、1または2の整数を表す)の部分を表し、

R^7 は、ハロゲン、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル、トリフルオロメトキシ、メチルまたはエチルを表し、

そして、

Y^1 、 Y^2 、 Y^3 、 Y^4 および Y^5 は、それぞれ、CHを表す]の化合物に関する。

35

【0033】

別の実施態様の場合、本発明は一般式(I)：

【式中、Aは、フェニルまたはピリジル環を表し、

R^1 および R^3 は、それぞれ、水素を表し、

R^2 は、フルオロ、クロロ、ブロモ、ニトロまたはシアノを表し、

R^4 は、シアノ、 C_1-C_4 -アルキルカルボニルまたは C_1-C_4 -アルコキシカルボニル(前記において、 C_1-C_4 -アルコキシカルボニルは、ヒドロキシ、 C_1-C_4 -アルコキシ、 C_1-C_4 -アルコキシカルボニル、モノーおよびジ- C_1-C_4 -アルキルアミノ、ヘテロアリールおよびヘテロシクリルから成る群から選択される基で置換されてもよい)を表し、

40

R^5 は、メチルを表し、

R^6 は、水素、 C_1-C_4 -アルキル、モノーまたはジ- C_1-C_4 -アルキルアミノカルボニル、 C_1-C_4 -アルキルカルボニルまたは C_1-C_6 -アルコキシカルボニル(前記において、 C_1-C_6 -アルキルおよび C_1-C_6 -アルコキシカルボニルは、ヘテロアリール、ヒドロキシ、 C_1-C_4 -アルコキシ、ヒドロキシカルボニル、アミノカルボニル、モノーおよびジ- C_1-C_4 -アルキルアミノカルボニル、アミノ、モノーおよびジ- C_1-C_4 -アルキルアミノから成る群から選択される基で置換されてもよい)を表すか、

または、

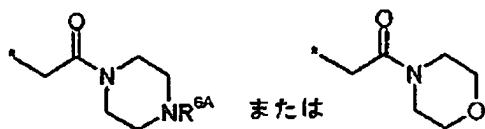
R^6 は、式：

50

(17)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化5】



(式中、R^{6A}は、水素およびメチルから成る群から選択される)の部分を表し、

R'は、トリフルオロメチルまたはニトロを表し、

そして、

Y¹、Y²、Y³、Y⁴およびY⁵は、それぞれ、CHを表す]の化合物に関する。

10

【0034】

別の実施態様の場合、本発明はAがフェニルまたはピリジルである一般式(I)の化合物に関する。

【0035】

別の実施態様の場合、本発明はR¹が水素である一般式(I)の化合物に関する。

【0036】

別の実施態様の場合、本発明はR²がシアノである一般式(I)の化合物、特にAがフェニルまたはピリジルであり、且つR²が中央のジヒドロピリミジノン環に対してパラ位に位置しているシアノである一般式(I)の化合物に関する。

20

【0037】

別の実施態様の場合、本発明はR³が水素である一般式(I)の化合物に関する。

【0038】

別の実施態様の場合、本発明はR⁴が所望によりヒドロキシで置換されるC₁-C₄-アルコキシカルボニル、特に2-ヒドロキシエトキシカルボニル、または、R⁴がC₁-C₄-アルキルカルボニル、特にメチルカルボニルである一般式(I)の化合物に関する。

【0039】

別の実施態様の場合、本発明はR⁵がメチルである一般式(I)の化合物に関する。

30

【0040】

別の実施態様の場合、本発明はR⁶が水素である一般式(I)の化合物に関する。

【0041】

別の実施態様の場合、本発明はR⁷がトリフルオロメチルまたはニトロである一般式(I)の化合物、特にR⁷が中央のジヒドロピリミジノン環に対してメタ位に位置しているトリフルオロメチルである一般式(I)の化合物に関する。

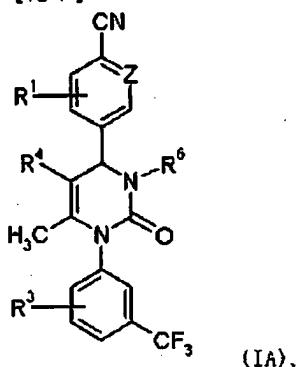
【0042】

別の実施態様の場合、本発明は、一般式(I A)：

(18)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【化6】



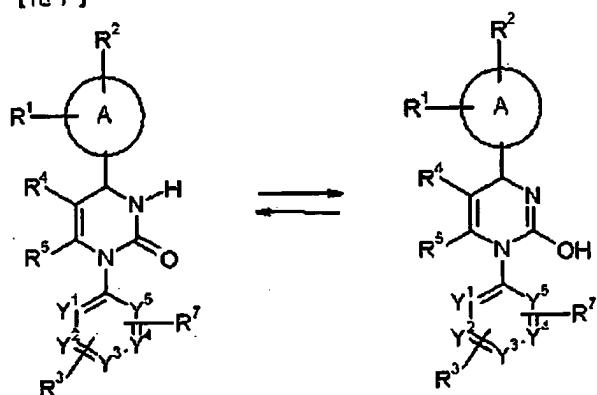
(式中、
Zは、C HまたはNを表し、そして、
 R^1 、 R^3 、 R^4 および R^6 は、上記に示す意味を有する)の化合物に関する。

【0043】

R^6 が水素である本発明化合物は、エノール化させ、対応するヒドロキシアミジンにす
ることが可能である:

20

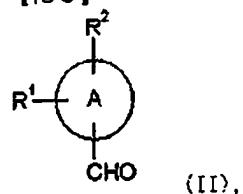
【化7】



【0044】

一般式(I)の化合物は、一般式(II) :

【化8】



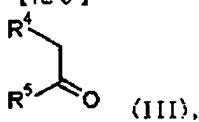
(式中、

A 、 R^1 および R^2 は上記に示す意味を有する)の化合物を、一般式(III) :

(19)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

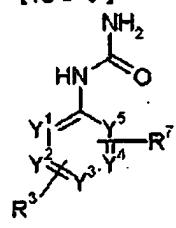
【化9】



(式中、

 R^4 および R^5 は上記に示す意味を有する)の化合物および一般式 (IV) :

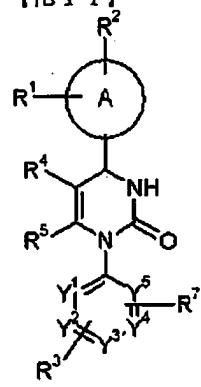
【化10】



(式中、

 R^3 、 R^7 および Y^1 から Y^5 は上記に示す意味を有する)の化合物と、酸の存在下で三成分/一工程反応で縮合させるか、または順々に縮合させて、一般式 (IB) :

【化11】



(式中、

A、 R^1 から R^5 、 R^7 および Y^1 から Y^5 は上記に示す意味を有する)の化合物を生成させ、所望により統いて一般式 (IB) の化合物を一般式 (V) : $R^6 \cdots -X$ (V),

(式中、

 $R^6 \cdots$ は上記に示す R^6 の意味を有するが、ただし水素を意味しない、

そして、

Xはハロゲン、トシラート (tosylate)、メシラート (mesylate) またはスルファート (sulfate) のような脱離基を表す) の化合物と塩基の存在下で反応させることにより合成することができる。

【0045】

 R^1 がシアノを表し、 R^3 がアミノを表し且つ R^5 が水素を表す一般式 (I) の化合物はもう一つの選択肢として、一般式 (II) の化合物を一般式 (IV) の化合物および式 (VI) : $N\equiv C - C_6H_4 - C\equiv N$ (VI)

の化合物と酸の存在下で三成分/一工程反応で縮合させるか、または順々に縮合させるこ

16

20

30

40

50

とによって製造することができる。

[0046]

工程 (II) + (III) / (VI) + (IV) → (IB) に適切な溶媒は、反応条件のもとで変化しない一般的に慣用の有機溶媒である。こうした溶媒には、ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、1, 2-ジメトキシエタン、ジオキサンまたはテトラヒドロフランのようなエーテル、酢酸エチル、アセトン、アセトニトリル、ジメチルスルホキシド、ジメチルホルムアミド、またはメタノール、エタノール、n-ブロバノール、イソブロバノール、n-ブタノールまたはt-ブタノールのようなアルコール、またはベンタノン、ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼン、トルエンまたはキシレンのような炭化水素、またはジクロロメタン、ジクロロエタン、トリクロロメタンまたはクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素が含まれる。¹⁹ また上記に述べた溶媒の混合物を使用することも可能である。この工程にはテトラヒドロフランが好ましい。

[0047]

工程 (II) + (III) / (VI) + (IV) → (IB) に適切な酸は、通常の無機または有機酸である。好ましいこうした酸には、たとえば、酢酸またはトリフルオロ酢酸のようなカルボン酸、たとえば、スタンスルホン酸またはパラ-トルエンスルホン酸のようなスルホン酸、塩酸またはポリリン酸のようなリン酸が含まれる。ポリリン酸エチルエステル (polyphosphoric acid ethyl ester) が優先される。酸は一般式 (III) の化合物 1 mol に対して、0. 25 mol から 100 mol までの量で使用される。²⁰

[0048]

この工程は一般的には、+20℃から+150℃まで、好ましくは、+60℃から+100℃までの温度範囲でおこなわれる。

[0049]

この工程は一般的に常圧で行われる。しかしながら、高圧または減圧下で（たとえば、0. 5 バール (bar) から 5 バールの範囲で）おこなうことも可能である。

[0050]

工程 (IB) + (V) → (I) に適切な溶媒は、反応条件のもとで変化しない一般的に慣用の有機溶媒である。こうした溶媒には、ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、1, 2-ジメトキシエタン、ジオキサンまたはテトラヒドロフランのようなエーテル、酢酸エチル、アセトン、アセトニトリル、ジメチルスルホキシド、ジメチルホルムアミド、またはベンタノン、ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼン、トルエンまたはキシレンのような炭化水素、またはジクロロメタン、ジクロロエタン、トリクロロメタンまたはクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素が含まれる。また上記に述べた溶媒の混合物を使用することも可能である。この工程にはテトラヒドロフランが好ましい。³⁰

[0051]

工程 (IB) + (V) → (I) に適切な塩基は、一般的無機または有機塩基である。好ましいこうした塩基には、たとえば、ビペリジンまたは4-N, N-ジメチルアミノビペリジンのような環状アミン、またはたとえば、トリエチルアミンまたはジイソプロピルエチルアミンのような (C₂-C₄) -トリアルキルアミン、または水素化ナトリウムのような水素化物が含まれる。水素化ナトリウムが優先される。こうした塩基は、一般式 (IV) の化合物 1 mol に対して、0. 1 mol から 10 mol、好ましくは、1 mol から 3 mol までの量で使用される。⁴⁰

[0052]

この工程は一般的には、0℃から+150℃まで、好ましくは、+20℃から+80℃までの温度範囲、特に室温でおこなわれる。

[0053]

この方法は一般的に常圧で行われる。しかしながら、高圧または減圧下で（たとえば、0. 5 バール から 5 バール の範囲で）おこなうことも可能である。

[0054]

一般式 (II)、(III)、(IV)、(V) および (VI) の化合物はそれ自体公⁵⁰

(21)

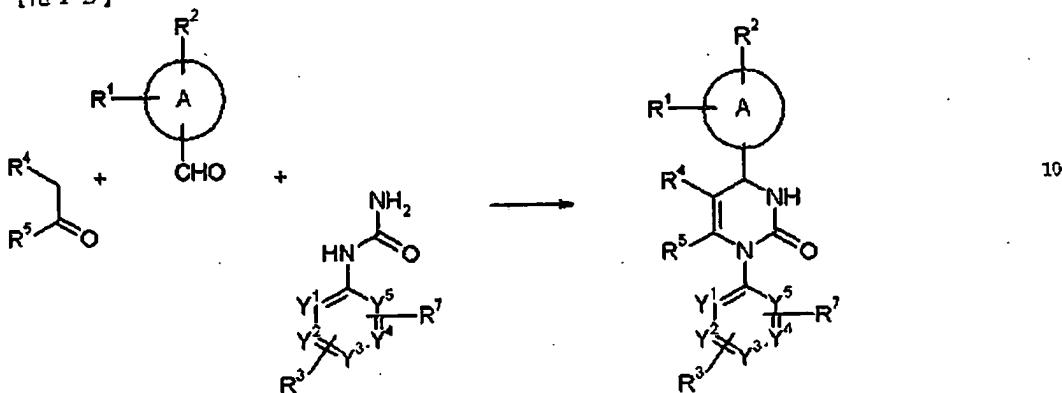
JP 2006-507355 A 2006.3.2

知であるか、または慣用の方法によって製造することが可能である。

[0055]

上記の方法は次の図式によって図解することができる：

[化12]



[0056]

本発明による化合物は、予測できない有用な薬理学的かつ薬物動態学活性スペクトルを示す。それゆえ、これらの化合物はヒトおよび動物の疾患の治療および/または予防のための薬剤としての使用に適している。

[0057]

驚くべきことに、本発明化合物は、ヒトの好中球エラスター（HNE）阻害活性を示し、それゆえ、HNE活性に関連している病気を治療する薬剤を製造するために好適である。したがって、本発明化合物によって、関節リウマチ、アテローム性硬化症（atherosclerosis）のような急性および慢性炎症過程（acute and chronic inflammatory processes）、そして、殊に、肺線維症、囊胞性線維症、肺炎、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）、特に、喫煙によって引き起こされる気腫を含む肺気腫、および慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性気管支炎および気管支拡張症のような急性および慢性肺疾患の有効な治療を提供することができる。本発明化合物は、更に、急性冠症候群、急性心筋梗塞、不安定および安定狭心症、冠動脈バイパス術（CABG）および心不全の形成・進展（heart failure development）のような心臓血管虚血性疾患の有効な治療、アテローム硬化症、僧帽弁疾患、心房中隔欠損症、経皮経管冠動脈形成術（PTCA）、心臓切開手術後の炎症の有効な治療および肺高血圧症の有効な治療を提供することができる。本発明化合物はまた、関節リウマチ、急性炎症性関節炎（acute inflammatory arthritis）、癌、急性肺炎、潰瘍性大腸炎、歯周疾患、チャーチー・ストラウス症候群（アレルギー性肉芽腫性血管炎）、急性および慢性アトピー性皮膚炎、乾癬、全身性エリテマトーデス、水泡性類天疱瘡、敗血症、アルコール性肝炎、肝線維症、ペーチェット病、アレルギー性真菌性副鼻腔炎（allergic fungal sinusitis）、アレルギー性副鼻腔炎、クローン病、川崎病、糸球体腎炎、急性腎孟腎炎、結腸直腸疾患、慢性化膿性中耳炎、慢性静脈性下腿潰瘍（chronic venous leg ulcers）、炎症性腸疾患、細菌およびウイルス感染症、脳損傷、脳卒中および好中球の関与が関係している他の病態の有効な治療に有用であることが実証されることも可能である。

[0058]

本発明は、更に、本発明の少なくとも一つの化合物を、好ましい場合は、一つまたはそれ以上の薬理学的に安全な賦形剤または担体物質と一緒に含んでいる薬剤を提供し、および、また上記の目的のためのその使用をも提供する。

[0059]

この活性成分は、全身および/または局所に作用することができる。この目的のために

、それは、たとえば、経口、非経口、肺、鼻内、舌下、舌、口内、直腸、経皮、結膜、耳のルート、またはインプラントとして適切な方法で適用することができる。

【0060】

これらの適用ルート用に、活性成分を、適切な投与形態で投与することができる。

【0061】

有用な経口適用形態には、たとえば、錠剤（コーティングされていない錠剤および、たとえば腸溶性被覆を施した被覆錠剤）、カプセル剤、糖衣錠、顆粒剤、ペレット、散剤、乳剤、懸濁剤、溶液およびエアゾール剤のような活性成分を急速におよび/または改変された形態で放出する適用形態が含まれる。

【0062】

非経口適用では、吸収ステップを回避するか（静脈内、動脈内、心臓内、髄腔内、または腰椎内）、または吸収を介在（筋肉内、皮下、皮内、経皮的または腹腔内）しておこなうことができる。有用な非経口適用形態には、溶液、懸濁液、乳化液、凍結乾燥および無菌散剤 (sterile powders) の形態での注射および点滴製剤が含まれる。

【0063】

他の適用ルートに好適な形態には、たとえば、吸入医薬形態（粉末吸入器 (powder inhalers)、ネブライザーを含む）、鼻用滴剤/液剤（点鼻薬）(nasal drops/solutions)、スプレー；舌、舌下、または口内に投与する錠剤またはカプセル剤、坐剤、耳および眼用製剤、腔用カプセル、水性懸濁液（ローション、振蕩剤 (shake mixtures)）、脂肪親和性懸濁液 (lipophilic suspensions)、軟膏、クリーム、ミルク、ペースト、ダスティン グパウダー (dusting powders) またはインプラントが含まれる。

【0064】

活性成分は、それ自体公知の方法で、上述した適用形態に変換することができる。これには、不活性な非毒性の製薬的に好適な賦形剤を用いておこなう。これらには、とりわけ、担体（たとえば、微結晶セルロース）、溶媒（たとえば、液体ポリエチレングリコール）、乳化剤（たとえば、ドデシル硫酸ナトリウム (sodium dodecyl sulphate)）、分散剤（たとえば、ポリビニルピロリドン）、合成および天然生体高分子（たとえば、アルブミン）、安定化剤（たとえば、アスコルビン酸のような抗酸化剤）、着色剤（たとえば、酸化鉄のような無機色素）または味および/または匂いの矫味香料が含まれる。

【0065】

ヒトに使用する場合、経口投与の際は、0.001から50mg/kg、好ましくは、0.01mg/kgから20mg/kgの投与量を投与することができる。たとえば、静脈内または粘膜を介して鼻内、口内または吸入のような非経口的投与の際は、0.001mg/kgから0.5mg/kgの投与量を使用することができる。

【0066】

しかしながら、特定の状況においては、すなわち、体重、適用ルート、活性成分に対するそれぞれ個々の反応、製剤方法および適用がなされる時間または間隔いかんによって、上述した量を逸脱することも必要でありうる。したがって、たとえば、上述の最小量より少ない量で済ますことで十分である場合もありうることであり、一方、他の場合では、上述の上限を超なければならないであろう。より多い量を適用する場合は、それらの量を一日にわたり、複数回のそれぞれ個々の投与幅に分けることが望ましいといえる。

【0067】

以下に述べる試験および実施例におけるパーセンテージは、特に述べない限り、重量によるものであり、部（パート）も重量によるものである。溶媒比、希釈比、および液体/液体溶液 (liquid/liquid solutions) で報告されている濃度は、それぞれ、容積 (volume) に基づくものである。

【0068】

A. 生理学的活性の評価

本発明化合物が好中球エラスター活性を阻害する可能性について、たとえば、次のアッセイを用いて示すことができる。

10

20

30

40

50

I. ヒト脛中球エラスター^ゼ (HNE) のイン・ビトロにおけるエンザイムアッセイ
アッセイコンテンツ (Assay contents)

アッセイバッファー：0.1M HEPES-NaOH バッファー pH 7.4、
0.5M NaCl、0.1% (w/v) 牛血清アルブミン；
アッセイバッファー中の適切な濃度（下記参照）のHNE (18 U/mg 濃縮乾燥品 (lyophil.) #20927.01, SERVA Electrophoresis GmbH, Heidelberg, Germany)；
アッセイバッファー中の適切な濃度（下記参照）の基質 (substrate)；
DMSO中の10 mMストックソリューション (stock solution) を用いて、アッセイバッファーで希釈する適切な濃度の試験化合物。
19

【0069】

実施例A

蛍光原ペプチド基質を用いるHNEのイン・ビトロにおける阻害（連続的リードアウトシグナル(continuous read-out signal)、384 MTPアッセイフォーマット）：
本プロトコールの場合、エラスター^ゼ基質としてMeOSuc-Ala-Ala-Pro-Val-AMC (#324740, Calbiochem-Novabiochem Corporation, Merck KGaA, Darmstadt, Germany) が用いられる。試験溶液を、10 μlの試験化合物希釈液、20 μlのHNE酵素希釈液（最終濃度 (final concentration) 8-0.4 U/ml、通常(routinely) 2.1 μU/ml）および20 μlの基質希釈液（最終濃度 1 mM-1 μM、通常 20 μM）
20 をそれぞれ混和することによって調製する。この溶液を、37°Cで0-2時間（通常は1時間）インキュベートする。酵素反応により遊離したAMCの蛍光を37°Cで測定する（TECAN蛍光スペクトルおよびプレートリーダー）。蛍光 (ex. 395 nm, em. 460 nm) 増加率は、エラスター^ゼ活性に比例する。IC₅₀ 値は、相対蛍光強度と阻害濃度プロット (RFU-versus-[I] plots) によって決定される。K_m およびK_i (app.) 値は、ラインウェバーー・バーカー・プロット (Lineweaver-Burk plots) によって決定され、ディクソン・プロット (Dixon plots) によってK_i 値に変換される。

【0070】

本アッセイにおいて、調製サンプルは、5 nM-5 μMの範囲内のIC₅₀ 値を有して
いた。代表的データを表1に示す。

表1

【表1】

実施例番号	IC ₅₀ [nM]
1	8
9	40
14	5
15	8
16	10
20	700
24	13
26	10
28	50
58	1100
60	5
72	6
73	60
74	20
103	60
109	15
110	50

19

20

【0071】

実施例B

蛍光原、不溶性エラスチン基質（非連続リードアウトシグナル（discontinuous read-out signal）、9.6 MTPアッセイフォーマット）を用いるHNEのイン・ビトロにおける阻害：

本プロトコールにおいては、エラスターーゼ基質として、エラスチンーフルオレセイン（elastin-fluorescein）(# 100620, ICN Biomedicals GmbH, Eschwege, Germany) が用いられる。試験溶液を、3 μlの試験化合物希釈液、77 μlのHNE酵素希釈液（最終濃度0.22 U/ml - 2.2 mU/ml, 通常21.7 μU/ml）および80 μlの基質懸濁液（最終濃度2 mg/ml）を混和することによって調整する。この懸濁液を37°Cで0-16時間（通常4時間）少し振とうしながらインキュベートする。酵素反応を終了させるには、160 μlの0.1 M酢酸を試験溶液（最終濃度5.0 mM）に加える。重合した（polymeric）エラスチンーフルオレセインを遠心分離（Eppendorf 5804 遠心機、3,000 rpm、10分）によって沈殿させる。上澄み液を新しいMTPに移し、次に、酵素反応により遊離したペプチドフルオレセインの蛍光を測定する（BMGフルオスターープレートリーダー（BMG Fluostar plate reader））。蛍光強度比（rate of fluorescence）(ex. 490 nm, em. 520 nm) は、エラスターーゼ活性に比例する。IC₅₀ 値を、相対蛍光強度と阻害濃度プロット（RFU-versus-[I] plots）によって決定する。

40

【0072】

I.I. イン・ビトロにおけるヒト好中球アッセイ実施例A

50

(25)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

イン・ビトロにおけるPMNエラストリシス (elastolysis)アッセイ：

本アッセイは、ヒト多形核白血球 (polymorphonuclear cells: PMNs) のエラストリティックポテンシャル (elastolytic potential)を決定するためおよび好中球エラスターによる分解 (degradation)の割合を評価するために使用される [Z. W. Sheet al., Am. J. Respir. Cell. Mol. Biol. 9, 386-392 (1993) 参照]。

【0073】

懸濁したトリチウム化エラスチン (tritiated elastin)をウエルあたり $10\ \mu\text{g}$ 、 96 ウエルプレートに塗布する。試験および参照 [ZD-0892 (J. Med. Chem. 40, 1876-1885, 3173-3181 (1997), WO95/21855) 10 および α 1プロテアーゼインヒビター (α 1PI)] 化合物を適切な濃度でウエルに加える。ヒトPMNsを、健常なドナーの末梢静脈血液から分離し、次に、培養液に再び懸濁する。好中球をウエルあたり 1×10^6 から 1×10^5 細胞の範囲の濃度で、塗布されたウエルに加える。ブタ肺臓エラスター (1.3 μM) をこのアッセイの陽性コントロール (positive control)として使用し、 α 1PI (1.2 μM) を好中球エラスターの陽性インヒビター (positive inhibitor)として使用する。細胞コントロール (cellular control)は、各々適切な細胞密度で化合物が存在しない場合のPMNsである。この細胞と化合物を 37°C で 4 時間、加温インキュベーター内でインキュベートする。プレートを遠心分離し、細胞上澄み液のみを採取する。この上澄み液を 96 ウエルのルマプレート (Lumatplate 商標名：固体のシンチラント (scintillant)を含んでいるプレート 20) の対応するウエルに $75\ \mu\text{l}$ 容量で移す。このプレートを液体がウエル内に見えなくなるまで乾燥し、次に、ウエルあたり 3 分間、情報をバータカウンター (beta counter)内に読み込む。

【0074】

^3H -エラスチンのエラストリシス (elastolysis)によって、上澄み液内でカウント (counts)は増加する。このエラストリシスを阻害することは、細胞コントロールからみて、上澄み液内のトリチウム (tritium)が減少することを示す。 α 1PIは、 $1.2\ \mu\text{M}$ ($n=3$ (異なるドナー) ウエルあたり 3.6×10^5 細胞) で $83.46 \pm 3.97\%$ (平均値の標準誤差: mean \pm s. e. m.) であった。IC₅₀ 値を、 $45.50 \pm 7.75\ \text{nM}$ (mean \pm s. e. m.) である参照化合物 ZD-0892 ($n=2$ (異なるドナー) ウエルあたり 3.6×10^5 細胞) に対して得た。 30

【0075】

この α 1PI 阻害データに加え、ZD-0892がPMNエラスターの選択的阻害剤であることを考慮すると、こうした結果によって、PMNsによるエラスチン分解 (elastin degradation) の大部分は好中球エラスターの放出によるものであり、マトリックスマタロプロテアーゼ (matrix metalloproteinases: MMPs) のような他のエラストリティック酵素 (elastolytic enzyme)によるものではないことが示される。本発明化合物について、好中球のエラストリシスの本 HNE 依存性モデル (HNE-dependent model)においてこうした阻害活性の有無が評価される。 40

【0076】

実施例 E

膜結合エラスター (membrane bound elastase)のイン・ビトロにおける阻害：

好中球膜に結合するエラスター阻害の測定がヒト好中球アッセイを用いておこなわれる。好中球を、 37°C で 35 分間、LPS で刺激し、次いで、 1600 rpm で回転させる (spun)。次に、膜結合エラスターを 3 % バラホルムアルデヒドと 0.25 %、グルタルアルデヒドで、 4°C で 3 分間、好中球に固定する。次いでこの好中球を回転させ (spun)、次に、媒体 (vehicle)と評価化合物を加え、続いて、基質 MeOSuc-Ala-Ala-Pro-Val-AMC (#324740, Calbiochem-Novabiochem Corporation, Merck KGaA, Darmstadt, Germany) を $200\ \mu\text{M}$ 加える。 37°C で 25 分のインキュベーションの後、反 50

応をPMSF(フェニルメタンスルホニルフルオリド)で停止させ、次に、蛍光をex: 400 nm、em: 505 nmで読む。IC₅₀値を、相対蛍光強度と阻害濃度プロットから内挿し決定する。

【0077】

III. イン・ビボモデル

実施例A

ラットにおける急性肺傷害(acute lung injury)のイン・ビボモデル:
ヒト好中球エラスターーゼ(HNE)をラットの肺に注入して、急性肺傷害を惹起させる。この傷害の程度は、肺出血を測定することによって推定することができる。

【0078】

ラットを、ハイポノルム(Hypnorm)/ハイポノベル(hypnovel)/水で麻酔し、HNEまたは塩水をマイクロスプレイヤー(microsprayer)で供給し、肺に注入する。試験化合物を静脈注射、経口胃管栄養法、または吸入法によって、特定時に投与し、続いてHNEを投与する。エラスターーゼ投与60分後に、動物を過剰投与麻酔(ソディウムペントバルビトン(sodium pentobarbitone))によって死なせ、次に、肺を2mlのヘパリン緩衝食塩水/heparinised phosphate buffered saline(PBS)で洗浄する。気管支肺胞洗浄量(Bronchoalveolar lavage(BAL) volume)を記録し、次に、サンプルを氷上に置いておく。各BALサンプルを4-10℃で10分間、900 r.p.m.で遠心分離する。上澄み液を捨て、セルペレット(cell pellet)をPBS中で再懸濁し、サンプルを再びスピンドウൺさせる。上澄み液をこの場合も捨て、セルペレットを1mlの0.1%セチルトリメチルアンモニウムプロミド(CTAB)/PBS中で再懸濁し、細胞を溶解させる。サンプルは、血液量(blood content)をアッセイするまで凍結しておく。出血アッセイ(haemorrhage assay)の前に、サンプルを解凍し、混ぜる。100μlの各サンプルを、96ウエル平底プレートの別個のウエル内に入れる。サンプルはすべて重複して(in duplicate)試験される。100μlの0.1%CTAB/PBSをプランクとして含める。ウエル内容物の吸光度を分光光度計を用いて415nmで測定する。標準曲線を0.1%CTAB/PBS中で異なる血液濃度の415nmでの吸光度(OD)を測定することによって作図する。血液量値(blood content values)を標準曲線(各プレートに含まれる)と比較することによって計算し、回収BAL液量に対して正規化する(normalised)。

【0079】

本発明化合物を、ラットのこのHNE誘発出血モデルにおけるその阻害活性の有無を、静脈内、経口または吸入によって評価する。

【0080】

実施例B

ラットにおける急性心筋梗塞のイン・ビボモデル:
エラスターーゼ阻害剤をラットの糸上げ梗塞モデルで試験する。雄ウイスターラット(体重>300g)に10mg/kgのアスピリンを与え、30分後に手術をおこなう。これらのラットをイソフルラン(isofluran)によって麻酔し、これらに全手術の間、人工呼吸器(ベンチレーター)(120-130脈拍/分、1回拍出量200-250μl:Minivent Type 845, Hugo Sachs Elektronik, Germany)を用いる(ventilated)。第4肋間隙での左開胸術の後、心臓(pericardium)を開き、心臓を少しの間露出させる。糸を動脈を閉塞させずに左冠動脈(LAD)で向きを変える。この糸は、皮膚の下をこの動物の首まで通す。胸部を閉じ、次に、この動物を4日間回復させる。5日目にラットをエーテルで3分間麻酔し、次いで、糸を切り、LADをECG(心電図)コントロール下で閉塞する。試験化合物を、LAD閉塞の前または後に、経口的に、腹腔内にまたは静脈内(ボーラスまたは連続的な点滴)に投与する。1時間の閉塞の後、糸を再び開き灌流させる。心臓を摘出し、次に、梗塞の大きさを再閉塞した心臓をエバансブルー(Evans blue)で着色し、続いて2mmの心臓切片のTTC(トリフェニルテトラゾリウムクロリド)着色をすることによって、48時間後に決定する。酸素正常状態(非閉塞組織)部分(normoxic areas)は、青色に着色し、虚血(閉塞)50

(27)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

されたが、生き残っている組織)部分 (ischemic areas)は、赤色に着色し、そして壊死した (閉塞され、死んだ組織)部分 (necrotic areas)は、白色のままである。それぞれの組織部分をスキャンし、梗塞の大きさをコンピューター面積測定法 (computer planimetry)によって決定する。

【0081】

B. 実施例略号:

a q.	水性 (aqueous)	
c on c.	濃厚な (concentrated)	
D MF	N, N-ジメチルホルムアミド	16
D M S O	ジメチルスルホキシド	
E I	電子衝撃イオン化 (質量分析)	
E S I	エレクトロスプレーイオン化 (質量分析)	
H P L C	高圧液体クロマトグラフィー	
L C - M S	液体クロマトグラフ質量分析	
M p.	融点	
M S	質量分析	
N M R	核磁気共鳴スペクトル	
o f t h.	理論 (収量) の	
R _t	保持時間 (HPLC)	20
T H F	テトラヒドロフラン	

【0082】

一般的方法:

反応のすべては別途言及しない限り、アルゴン雰囲気下でおこなわれた。溶媒については、Aldrich から購入した溶媒を更に精製することなく使用した。“シリカゲル”または“シリカ”は、Merck KGaA companyからのシリカゲル60(0.40mm-0.063mm)を言う。融点はピュッヒ512(Buechi 512)または類似の融点装置を用いて得られ補正はされていない。

【0083】

分取 (preparative) HPLC で精製された化合物は、溶出剤としてアセトニトリルと水を用い、1:9から9:1のグラジェントを使用してRP18カラムで精製された。

【0084】

LC-MS/HPLC方法:LC-MS方法1

機器: Micromass Quattro LCZ, HP1100; カラム: Uptisphere HDO, 5.0mm×2.0mm, 3μm; 溶出剤A: 水+0.05%ギ酸, 溶出剤B: アセトニトリル+0.05%ギ酸; グラジェント: 0.0分 100%A→0.2分 100%A→2.9分 30%A→3.1分 10%A→4.5分 10%A: オープン: 55℃; 流速: 0.8ml/分; UV検出: 208-400nm。

【0085】

LC-MS方法2

機器: Waters Alliance 2790 LC; カラム: Symmetry C18, 5.0mm×2.1mm, 3.5μm; 溶出剤A: 水+0.1%ギ酸, 溶出剤B: アセトニトリル+0.1%ギ酸; グラジェント: 0.0分 5% B→5.0分 10% B→6.0分 10% B; 温度: 50℃; 流速: 1.0ml/分; UV検出: 210nm。

【0086】

LC-MS方法3

機器: Micromass Platform LCZ, HP1100; カラム: Aquasil C-18, 5.0mm×2.0mm, 3μm; 溶出剤A: 水+0.05%ギ酸, 溶出剤B: アセトニトリル+0.05%ギ酸; グラジェント: 0.0分 100%A→0.50分 100%A→1.0分 50%

(28)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

. 2分 100%A→2. 9分 30%A→3. 1分 10%A→4. 5分 10%A:
オープン: 55℃; 流速: 0. 8ml/分; UV検出: 208-400nm。

【0087】

HPLC方法4

機器: HP 1100 (DAD検出器付き): カラム: Kromasil RP-18, 6
0mm×2mm, 3. 5μm; 溶出剤: A = 5m1 HClO₄/1 H₂O, B = アセト
ニトリル: グラジエント: 0分 2%B, 0. 5分 2%B, 4. 5分 90%B, 6.
5分 90%B; 流速: 0. 75ml/分; 温度: 30℃; UV検出: 210nm。

【0088】

LC-MS方法5

機器: Micromass TOF-MUX-インターフェイス 四重バラレルインジェ
クション (Interface 4-fold parallel injection)-HPLC Waters 600; カラム: Uptisphere HDO, 50m
m×2. 0mm, 3. 0μm; 溶出剤A: 11水+1m150%ギ酸, 溶出剤B: 11ア
セトニトリル+1m150%ギ酸; グラジエント: 0. 0分 100%A→0. 2分 1
00%A→2. 9分 30%A→3. 1分 10%A→4. 5分 10%A→4. 6分 1
00%A→6. 5分 100%A; オープン: 室温; 流速: 0. 8ml/分; UV検出:
210nm。

【0089】

LC-MS方法6

機器: Micromass Platform LCZ-HPLC Agilent S
erie 1100; カラム: Grosm-SIL 120 ODS-4 HE, 50mm×
2. 0mm, 3μm; 溶出剤A: 11水+1m150%ギ酸, 溶出剤B: 11アセトニト
リル+1m150%ギ酸; グラジエント: 0. 0分 100%A→0. 2分 100%A
→2. 9分 30%A→3. 1分 10%A→4. 5分 10%A: オープン: 55℃:
流速: 0. 8ml/分; UV検出: 208-400nm。

【0090】

LC-MS方法7

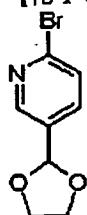
機器: Micromass Quattro LCZ-HPLC Agilent Se
rie 1100: カラム: Uptisphere HDO, 50mm×2. 0mm, 3
μm; 溶出剤A: 11水+1m150%ギ酸, 溶出剤B: 11アセトニトリル+1m15
0%ギ酸; グラジエント: 0. 0分 100%A→0. 2分 100%A→2. 9分 3
0%A→3. 1分 10%A→4. 5分 10%A; オープン: 55℃; 流速: 0. 8m
l/分; UV検出: 208-400nm。

【0091】

出発原料:実験例1 A

2-ブロモ-5-(1, 3-ジオキソラン-2-イル) ピリジン

【化13】



6-ブロモ-3-ピリジンカルバルデヒド (6-Bromo-3-pyridinecarbaldehyde) (5.0
0mg, 2. 7mmol) と 1, 2-エタンジオール (200mg, 3. 2mmol) を
、還流冷却器およびディーンスタークトラップ (Dean-Stark trap) を備えた丸底フラスコ 59

(29)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

中でアンバーリスト 15 (Amberlyst 15) (100 mg) とともにトルエン (50 ml) 中に溶解する。この溶液を終夜還流下で搅拌し、その後室温まで冷却し、濾過し、真空下で濃縮する。粗生成物を溶出剤としてシクロヘキサンと酢酸エチルを用いてシリカゲルでクロマトグラフィー処理すると、表題化合物を無色油状物として得る。

収量: 0.489 g (理論収量の 79 %)

HPLC (方法4) : 3.46 分

MS (ESI pos) : m/z = 231 ($M + H$)⁺

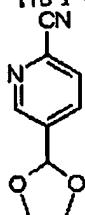
¹H-NMR (300 MHz, CDCl₃): δ = 8.46 (d, 1H), 7.64 (m, 1H), 7.49 (m, 1H), 4.15–4.00 (m, 4H) ppm.

[0092]

実施例 2A

5-(1,3-ジオキソラン-2-イル)-2-ピリジンカルボニトリル

[化14]



実施例 1A (2.8 g, 12.5 mmol)、シアノ化亜鉛 (1.6 g, 13.8 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスファイン)パラジウム (0) (1.4 g, 1.3 mmol) をジメチルホルムアミド (100 ml) に溶解し、80°Cで終夜 (18時間) 搅拌する。更にテトラキス(トリフェニルホスファイン)パラジウム (0) (0.1 g) を加え、反応を再び終夜 (18時間) 80°Cで搅拌して行い、次いで、2日間 (48時間) 室温で放置する。溶媒を真空下で除去し、残渣に水 (100 ml) を加え、生成物を酢酸エチル (1 l) で抽出する。有機相を塩水 (200 ml) で洗浄し、硫酸マグネシウム一水和物で乾燥し、濾過し、真空下で濃縮する。粗生成物を溶出剤としてシクロヘキサンと酢酸エチルを用いてシリカゲルでクロマトグラフィー処理すると、表題化合物を白色非晶形固体として得る。

収量: 0.94 g (理論収量の 42 %)

HPLC (方法4) : 3.21 分

MS (ESI pos) : m/z = 177 ($M + H$)⁺

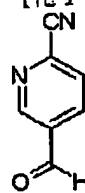
¹H-NMR (400 MHz, DMSO-d₆): δ = 8.81 (s, 1H), 8.09 (s, 2H), 5.95 (s, 1H), 4.13–3.94 (m, 4H) ppm.

[0093]

実施例 3A

5-ホルミル-2-ピリジンカルボニトリル

[化15]



方法 a) :

Dodd, D. et al. [J. Org. Chem. 1992, 57, 7226–7234] の手順に準じて製造される：アセトン/水 85:15 (59.5 ml) 中の 5%

10

20

30

40

(30)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

- (1, 3-ジオキソラン-2-イル)-2-ピリジンカルボニトリル（実施例2A：8.50 mg, 4.8 mmol）の搅拌溶液に、パラ-トルエンスルホン酸（1.02 mg, 0.59 mmol）を加える。反応を終夜（18時間）還流下で搅拌し、次いで、更にパラ-トルエンスルホン酸（5.0 mg）および水（5 ml）を加える。反応は更に48時間還流下で搅拌する。この溶液を室温まで冷却し、次に、飽和重炭酸ナトリウム溶液でクエンチ（quenched）する。この生成物を酢酸エチル（100 mlで3回）で抽出し、硫酸マグネシウム-水和物で乾燥し、滤過し、真空下で濃縮する。粗生成物を分取HPLCで精製すると、淡黄色固体を得る。

収量：0.66 g（理論収量の93%）

融点：80-82°C

10

HPLC（方法4）：2.13分

MS（ESI pos.）：m/z = 133 (M+H)⁺

¹H-NMR (400 MHz, DMSO-d₆)：δ = 10.18 (s, 1H), 9.21 (m, 1H), 8.49 (m, 1H), 8.27 (m, 1H) ppm.

【0094】

方法b）：

1. 0.4 g (8.2 mmol) のオキサリルクロリド（oxallylchloride）を8 mlのジクロロメタンに溶解する。-78°Cで、1.28 g (16.4 mmol) のジメチルスルホキシドを滴下する。この溶液を-78°Cで20分間搅拌し、次いで、7 mlのジクロロメタンに溶解した実施例5Aの化合物1 g (7.46 mmol) を加え、-78°Cでの搅拌を更に2時間継続する。次いで、3.4 g (33.6 mmol) のトリエチルアミンを滴下し、次に、室温まで暖めた後、この混合物をカラムクロマトグラフィー（シリカ、溶出剤 シクロヘキサンからシクロヘキサン/酢酸エチル2:1）によって精製する。

収量：0.76 g（理論収量の77%）

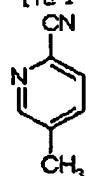
分析データ：上記参照

【0095】

実施例4A

5-メチル-2-ピリジンカルボニトリル

【化16】



3.6 g (20.9 mmol) の2-ブロモ-5-メチルピリジンと37.5 g (41.8 mmol) のシアノ化銅（copper cyanide）を500 mlのジメチルホルムアミド中で2時間還流する。50°Cまで冷却した後、10%アンモニア水溶液（500 ml）を搅拌しながら加える。生成物をジクロロメタンで抽出し、有機相を硫酸マグネシウムで乾燥し、次に、真空下で溶媒を除去する。生成物をカラムクロマトグラフィー（シリカ、溶出剤 シクロヘキサン/酢酸エチル 9:1）によって精製する。

収量：1.8 g（理論収量の73%）

¹H-NMR (300 MHz, CDCl₃)：δ = 2.4 (s, 3H), 7.6 (m, 2H), 8.6 (s, 1H) ppm.

【0096】

実施例5A

5-(ヒドロキシメチル)-2-ピリジンカルボニトリル

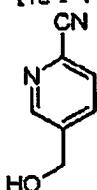
30

40

(31)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化17】



実施例4Aの化合物（13 g, 110 mmol）を400 mlのテトラクロロメタンに溶解し、次に、29.4 g (165 mmol) のN-ブロモスクシンイミド (N-bromosuccinimide)と0.4 g (1.6 mmol) のジベンゾイルペルオキシド(dibenzoylperoxide)を加える。反応混合物を3時間還流し、そして室温まで冷却し、濾過する。この溶液を水性チオ硫酸ナトリウムで洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥し、溶媒を真空中で除去する。残渣を200 mlのジオキサンおよび200 mlの水に溶解し、炭酸カルシウム (44 g, 440 mmol) を加え、次に、この混合物を2時間還流下で搅拌する。室温まで冷却した後、混合物を濾過し、次に、ジクロロメタンを加える。相分離の後、有機相を硫酸マグネシウムで乾燥し、溶媒を真空中で除去する。生成物をクロマトグラフィー（シリカ、溶出剤 シクロヘキサン/酢酸エチル 2:1）によって精製する。

収量：5.2 g (理論収量の35%)

¹H-NMR (300 MHz, CDCl₃): δ = 4.7 (d, 2H), 5.6 (t, 1H), 8.0 (m, 2H), 8.7 (s, 1H) ppm.

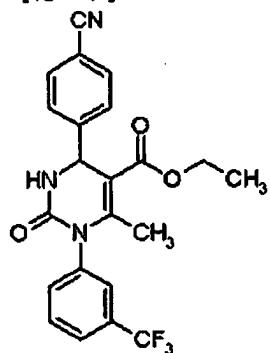
【0097】

製造実施例：

実施例1

エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化18】



7.0 g (34.29 mmol) のN-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素 (N-[3-(trifluoromethyl)phenyl]urea)、8.99 g (68.58 mmol) の4-シアノベンズアルデヒド、8.92 g (68.58 mmol) のエチル 3-オキソブタノアート (ethyl 3-oxobutanoate)および20 g のポリリン酸エチルエステル (polyphosphoric acid ethyl ester)を250 mlのTHF中で懸滴させる。この混合物を18時間還流下で搅拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、次に、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：13.4 g (91%)

¹H-NMR (200 MHz, CDCl₃): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.4 (d, 1H) ppm.

30

40

(32)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

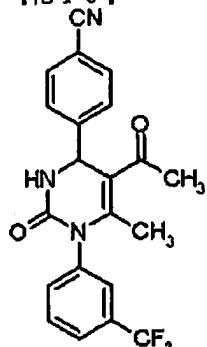
H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 3H); 7.9 (m, 2H); 8.4 (d, 1H) ppm.

【0098】

実施例2

4 - [5 - アセチル - 6 - メチル - 2 - オキソ - 1 - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] - 1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 4 - ピリミジニル] ベンゾニトリル

【化19】



10

265 mg (1.3 mmol) の N - [3 - (トリフルオロメチル)フェニル]尿素、
131 mg (1.0 mmol) の4 - シアノベンズアルデヒド、および100 mg (1. 20
0 mmol) の2, 4 - ベンタンジオンを2 mlのTHF中で懸濁させ、次に、触媒量の
濃塩酸を加える。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を
真空下で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによ
るカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 29 mg (7%)

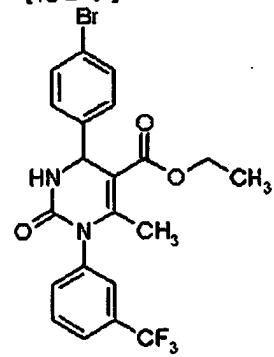
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.0 (s, 3H); 2.2 (s, 3H); 5.5 (d, 1H); 7.5 (m, 1
H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H); 8.5 (d, 1H) ppm.

【0099】

実施例3

エチル 4 - (4 - プロモフェニル) - 6 - メチル - 2 - オキソ - 1 - [3 - (トリフ
ルオロメチル) フェニル] - 1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 5 - ピリミジンカルボキシ
ラート

【化20】



40

204 mg (1.0 mmol) の N - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル]尿素、
142 mg (0.77 mmol) の4 - プロモベンズアルデヒド、および100 mg (0
. 77 mmol) のエチル 3 - オキソブタノアートを2 mlのTHF中で懸濁させ、次
に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却し
た後、溶媒を真空下で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて 50

(33)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 2.3 mg (6 %)

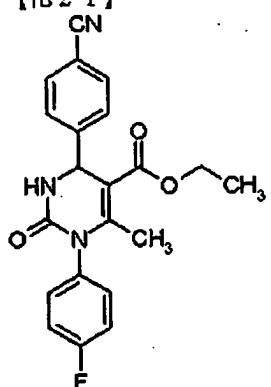
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.3 (d, 1 H); 7.4 (m, 2H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 3H); 8.3 (d, 1H) ppm.

【0100】

実施例4

エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[4-フルオロフェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化21】



10

20

1.54 mg (1.0 mmol) の N-[4-フルオロフェニル] 尿素、1.01 mg (0.77 mmol) の 4-シアノベンズアルデヒド、および 1.00 mg (0.77 mmol) のエチル 3-オキソブタノアートを 2 mL の THF 中で懸濁させ、次に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で 18 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空下で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 4.0 mg (14 %)

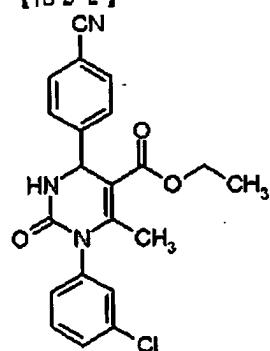
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.3 (d, 1 H); 7.3 (m, 4H); 7.5 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.3 (d, 1H) ppm.

【0101】

実施例5

エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-クロロフェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化22】



40

1.70 mg (1.0 mmol) の N-[3-クロロフェニル] 尿素、1.00 mg (0.77 mmol) の 4-シアノベンズアルデヒドおよび 1.00 mg (0.77 mmol) の

(34)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

エチル 3-オキソブタノアートを 2 ml の THF 中で懸濁させ、次に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で 18 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：1.3 mg (4 %)

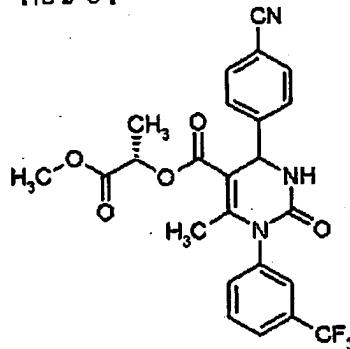
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆) : δ = 1.1 (t, 3H); 2.1 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.3 (d, 1H); 7.2 (m, 1H); 7.4 (m, 3H); 7.5 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.3 (d, 1H) ppm.

【0102】

実施例 6

(1S) - 2-メトキシ - 1-メチル - 2-オキソエチル 4 - (4-シアノフェニル)¹⁹ - 6-メチル - 2-オキソ - 1 - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] - 1, 2, 3, 4-テトラヒドロ - 5-ビリミジンカルボキシラート

【化23】



20

200 mg (0. 98 mmol) の N - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] 尿素、129 mg (0. 98 mmol) の 4-シアノベンズアルデヒド、92 mg (0. 49 mmol) の (1S) - 2-メトキシ - 1-メチル - 2-オキソエチル 3-オキソブタノアート、および 295 mg のポリリン酸エチルエステルを 3 ml の THF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で 18 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。ジアステレオアイソマーの混合物が得られる。³⁰

収量：96 mg (40 %)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆) : δ = 1.3 (d, 3H); 1.4 (d, 3H); 2.0 (s, 3H+3H); 3.6 (s, 3H); 3.6 (s, 3H); 5.0 (m, 1H+1H); 5.4 (m, 1H+1H); 7.6-7.9 (m, 8H+8H); 8.4 (m, 1H+1H) ppm.

【0103】

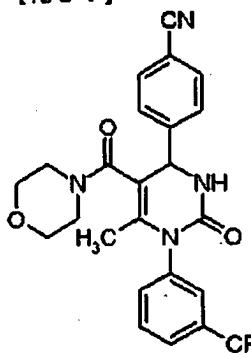
実施例 7

4 - 16 - メチル - 5 - (4 - モルホリニルカルボニル) - 2 - オキソ - 1 - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] - 1, 2, 3, 4-テトラヒドロ - 4-ビリミジニル⁴⁰ベンゾニトリル

(35)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化24】



16

150 mg (0. 73 mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、96 mg (0. 73 mmol) の4-シアノベンズアルデヒド、63 mg (0. 37 mmol) の4-(4-モルホリニル)-4-オキゾ-2-アタノンおよび220 mg のポリリン酸エチルエステルを3 ml のTHF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてジクロロメタン/メタノールを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

20

収量: 28 mg (16%)

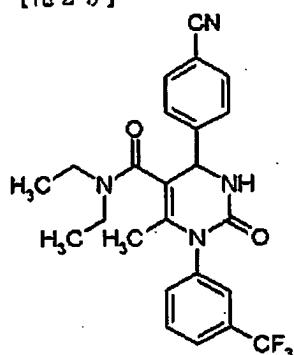
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.5 (s, 3H); 3.1 (m, 4H); 3.6 (m, 4H); 5.3 (br.s, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.0 (br.s, 1H) ppm.

【0104】

実施例8

4-(4-シアノフェニル)-N,N-ジエチル-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキサミド

【化25】



30

200 mg (0. 98 mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、128 mg (0. 98 mmol) の4-シアノベンズアルデヒド、77 mg (0. 49 mmol) の4-(4-ジエチルアミノ)-4-オキゾ-2-アタノンおよび295 mg のポリリン酸エチルエステルを3 ml のTHF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてジクロロメタン/メタノールを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

40

収量: 106 mg (47%)

50

(36)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

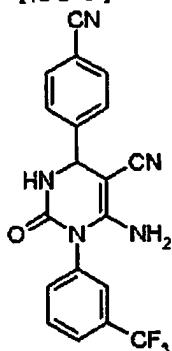
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 0.9 (m, 6H); 3.1 (m, 4H); 5.2 (br.s, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.0 (brs, 1H) ppm.

【0105】

実施例9

6-アミノ-4-(4-シアノフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボニトリル

【化26】



19

400 mg (1.97 mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、199 mg (1.51 mmol) の4-シアノベンズアルデヒドおよび100 mg (1.51 mmol) のマロンニトリル(malononitrile)を2 ml の THF 中に懸濁し、次に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてジクロロメタン/メタノールを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 4 mg (1%)

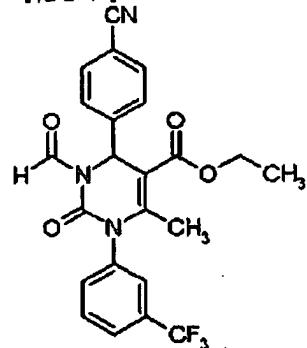
¹H-NMR (400 MHz, DMSO-d₆): δ = 5.2 (d, 1H); 6.0 (s, 2H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 2H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H); 8.4 (d, 1H) ppm.

【0106】

実施例10

エチル 4-(4-シアノフェニル)-3-ホルミル-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化27】



30

40

100 mg (0.23 mmol) の実施例1を1 ml のジメチルホルムアミドに溶解し、次に、35.7 mg (0.23 mmol) のホスホリルクロリド(phosphorylchloride)を加える。反応混合物を70°Cで2時間攪拌する。室温まで冷却した後、生成物を分取 HPLC によって単離する。

50

(37)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

収量: 4.3 mg (4.1 %)

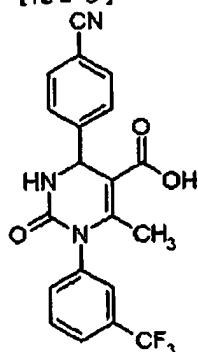
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.1 (s, 3H); 4.1 (q, 2H); 6.4 (s, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 4H); 9.2 (s, 1H) ppm.

【0107】

実施例 1.1

4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボン酸

【化2.8】



10

20

3 g (7 mmol) の実施例 1 を 50 mL の水とエタノール中の 100 mL の 5% 水酸化カリウムの混合物に溶解する。反応混合物を室温で 18 時間攪拌する。溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてジクロロメタン/メタノールを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 1.27 g (4.5 %)

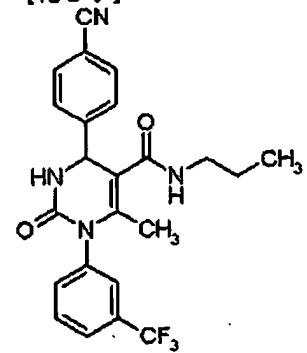
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.0 (s, 3H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 3H); 8.3 (d, 1H); 12.5 (s, 1H) ppm.

【0108】

実施例 1.2

4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-N-プロピル-1-[3-(³⁰トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキサミド

【化2.9】



40

4.0 mg (0.1 mmol) の実施例 1.1 を 2 mL のジメチルホルムアミドに溶解し、7 mg (0.11 mmol) の n-プロピルアミン、1.5 mg (0.11 mmol) の 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール水和物 (1-hydroxy-1H-benzotriazole hydrate) および 1.2 mg (0.1 mmol) の 4-ジメチルアミノピリジンを加える。反応混合物を 0 °C で攪拌し、次いで、2.1 mg (0.11 mmol) の 1-(3-ジメチルアミノ)⁵⁰

(38)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

プロピル) - 3-エチルカルボジイミド塩酸塩を加える。この反応混合物を室温で18時間攪拌し、次いで、水と酢酸エチルを加える。有機相を飽和水性硫酸水素カリウム (saturated aqueous KHSO_4)、水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、真空下で蒸発させ乾燥する。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取HPLCによって精製する。

収量: 2.9 mg (6.6 %)

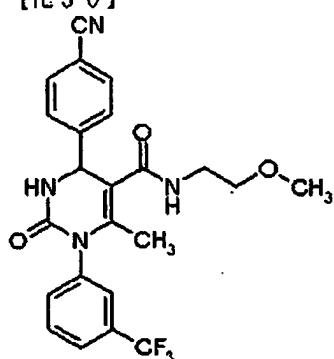
$^1\text{H-NMR}$ (300 MHz, DMSO-d_6): δ = 0.7 (t, 3H); 1.3 (sext, 2H); 1.7 (s, 3H); 3.0 (q, 2H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 2H); 7.8 (m, 2H); 7.9 (m, 1H); 8.1 (d, 1H) ppm.

[0109]

実施例 1.3

4-(4-シアノフェニル)-N-(2-メトキシエチル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキサミド

[化30]



4.8 mg (0.12 mmol) の実施例 1.1 を 2 ml のジメチルホルムアミドに溶解し、1.0 mg (0.13 mmol) の 2-メトキシエチルアミン、1.8 mg (0.13 mmol) の 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール水和物および 1.5 mg (0.12 mmol) の 4-ジメチルアミノビリジンを加える。反応混合物を 0°C で攪拌し、次いで、2.5 mg (0.13 mmol) の 1-(3-ジメチルアミノプロピル)-3-エチルカルボジイミド塩酸塩を加える。この反応混合物を室温で 18 時間攪拌し、次いで、水と酢酸エチルを加える。有機相を飽和水性硫酸水素カリウム、水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、真空下で蒸発させ乾燥する。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取HPLCによって精製する。

収量: 2.2 mg (4.0 %)

$^1\text{H-NMR}$ (300 MHz, DMSO-d_6): δ = 1.7 (s, 3H); 3.2 (s, 3H); 3.3 (m, 4H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 3H); 7.9 (m, 2H); 8.1 (m, 1H) ppm.

[0110]

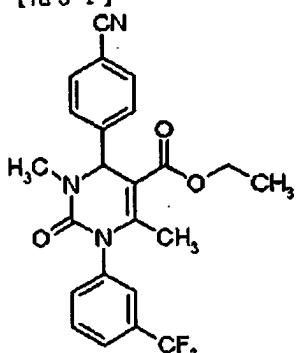
実施例 1.4

エチル 4-(4-シアノフェニル)-3,6-ジメチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

(39)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

[化31]



19

8.9 mg (0. 21 mmol) の実施例 1 を THF 2 ml 中の 6.0% 水素化ナトリウム (鉱物油中の) 12.4 mg (0. 31 mmol) 懸濁液に加える。この混合物を室温で 2 時間攪拌する。次いで、2.6 mg (0. 21 mmol) の硫酸ジメチルを加え、次に、この混合物を室温で更に 2 時間攪拌する。次いで、水と酢酸エチルを加え、有機相を水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、次に、真空中で蒸発させ乾燥させる。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取 HPLC によって精製する

20

収量: 8.5 mg (9.3%)

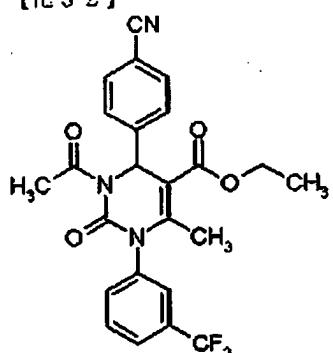
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 2.8 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.5 (s, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 2H); 7.9 (m, 2H) ppm.

[0111]

実施例 15

エチル 3-アセチル-4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

[化32]



30

100 mg (0. 23 mmol) の実施例 1 を THF 2 ml 中の 6.0% 水素化ナトリウム (鉱物油中の) 12 mg (0. 28 mmol) 懸濁液に加える。この混合物を室温で 2 時間攪拌する。次いで、9.1 mg (1. 16 mmol) の塩化アセチル (acetylchloride) を加え、次に、この混合物を室温で更に 2 時間攪拌する。次いで、水と酢酸エチルを加え、有機相を水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、次に、真空中で蒸発させ乾燥させる。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取 HPLC によって精製する。

収量: 9.3 mg (8.5%)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.2 (t, 3H); 2.1 (s, 3H); 2.5 (s, 3H); 4.2 (m, 2H) ppm.

40

(40)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

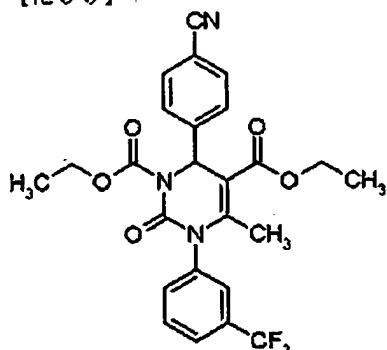
H) ; 6.7 (s, 1H); 7.4 (m, 1H); 7.5 (m, 2H); 7.6 (m, 1H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H);
; 7.9 (m, 2H) ppm.

【0112】

実施例16

ジエチル 6 - (4 - シアノフェニル) - 4 - メチル - 2 - オキソ - 3 - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] - 3, 6 - ジヒドロ - 1, 5 (2H) - ピリミジンカルボキシラート

【化33】



10

20

100 mg (0.23 mmol) の実施例1を THF 2 ml 中の 60% 水素化ナトリウム (鉱物油中の) 12 mg (0.28 mmol) 懸濁液に加える。この混合物を室温で 2 時間攪拌する。次いで、126 mg (1.16 mmol) のクロロ炭酸エチル (エチルクロリドカルボナート: ethyl chloridocarbonate) を加え、次に、この混合物を室温で更に 2 時間攪拌する。次いで、水と酢酸エチルを加え、有機相を水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、次に、真空中で蒸発させ乾燥させる。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取 HPLC によって精製する。

収量: 92 mg (79%)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.2 (t, 3H; t, 3H); 2.1 (s, 3H); 4.2 (m, 2H); 4.3 (q, 2H); 6.4 (s, 1H); 7.4 (m, 1H); 7.5 (m, 3H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H) ppm.

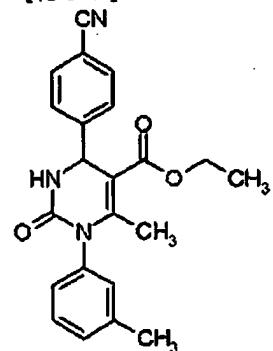
30

【0113】

実施例17

エチル 4 - (4 - シアノフェニル) - 6 - メチル - 1 - (3 - メチルフェニル) - 2 - オキソ - 1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 5 - ピリミジンカルボキシラート

【化34】



40

150 mg (1.0 mmol) の N - [3 - メチルフェニル] 尿素、101 mg (0.77 mmol) の 4 - シアノベンズアルデヒドおよび 100 mg (0.77 mmol) の

50

(41)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

3-オキソブタン酸エチル（エチル 3-オキソブタノアート：ethyl 3-oxobutanoate）を2mLのTHF中に懸濁し、次に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：8mg (3%)

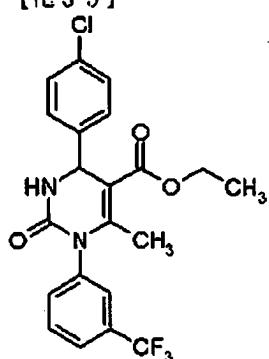
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆) : δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 2.3 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.3 (d, 1H); 7.0 (m, 2H); 7.2 (m, 1H); 7.3 (m, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.2 (d, 1H) ppm.

【0114】

実施例18

エチル 4-(4-クロロフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化35】



204mg (1.0mmol) のN-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、108mg (0.77mmol) の4-クロロベンズアルデヒドおよび100mg (0.77mmol) の3-オキソブタン酸エチルを2mLのTHF中に懸濁し、次に、触媒量の濃塩酸を加える。この混合物を還流下で18時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：29mg (9%)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆) : δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.3 (d, 1H); 7.5 (m, 5H); 7.6 (m, 1H); 7.7 (m, 2H); 8.3 (d, 1H) ppm.

【0115】

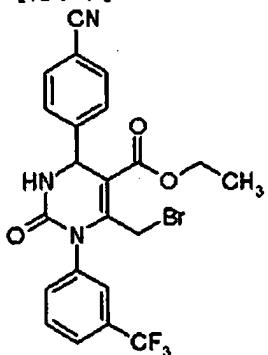
実施例19

エチル 6-(プロモメチル)-4-(4-シアノフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

(42)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化36】



16

3 g (7 mmol) の実施例 1 を 100 ml のクロロホルムに溶解する。0 ℃で、5.5 8 mg (3.48 mmol) の臭素を滴下する。この混合物を室温で2時間攪拌し、次いで、浴媒を真空中で除去する。残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いて、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：3.2 g (90%)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 4.0 (q, 2H, d, 1H); 4.6 (br d, 1H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 2H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H); 8.6 (d, 1H) ppm

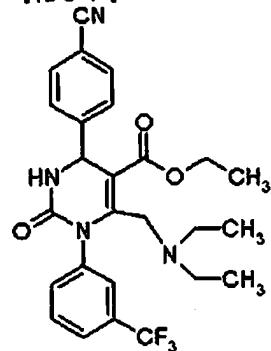
m.

【0116】

実施例 2.0

エチル 4-[(4-シアノフェニル)-6-[(ジエチルアミノ)メチル]-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化37】



36

20 mg (0.04 mmol) の実施例 1.9 を 2 ml のアセトンに溶解し、次に、8 mg (0.10 mmol) のジエチルアミンを加える。この混合物を室温で18時間攪拌し、次いで、浴媒を真空中で除去する。残渣を分取HPLCによって精製する。

収量：1.5 mg (75%)

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 0.6 (t, 6H); 1.1 (t, 3H); 2.0 (m, 2H); 2.2 (m, 2H); 3.1 (br d, 1H); 3.9 (br d, 1H); 4.1 (q, 2H); 5.4 (d, 1H); 7.5 (m, 1H); 7.6 (m, 4H); 7.7 (m, 1H); 7.9 (m, 2H) ppm.

【0117】

実施例 2.1

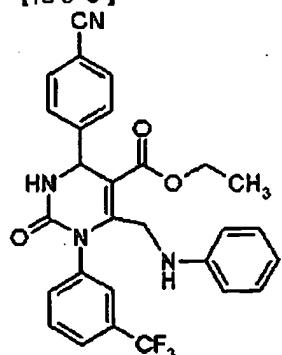
エチル 6-(アニリノメチル)-4-(4-シアノフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジ

(43)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

ンカルボキシラート

[化 38]



10

50 mg (0.10 mmol) の実施例 19 を 2 ml のアセトンに溶解し、次に、18 mg (0.20 mmol) のアニリンを加える。この混合物を室温で 18 時間攪拌し、次いで、溶媒を真空下で除去する。残渣を分取 HPLC によって精製する。

収量：28 mg (55%)

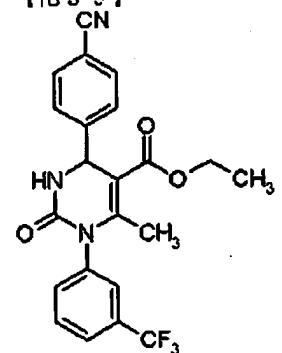
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 3.6 (d/d, 1H); 4.1 (q, 2H); 4.4 (d, 1H); 5.4 (m, 2H); 6.2 (m, 2H); 6.5 (m, 1H); 6.9 (m, 2H); 7.6 (m, 6H); 7.9 (m, 2H); 8.4 (d, 1H) ppm.

[0118]

実施例 22

(+) - エチル 4 - (4 - シアノフェニル) - 6 - メチル - 2 - オキソ - 1 - [3 - (トリフルオロメチル) フェニル] - 1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 5 - ピリミジンカルボキシラート

[化 39]



30

実施例 1 のエナンチオマーをキラル相分取 HPLC によって分離する：

1. 5 ml の酢酸エチルに溶解された化合物 100 mg、カラム KBD 8361 (モノマー N - メタクリロイル - L - ロイシン - 1 - メンチルアミドに基づくキラルシリカゲルセレクター、欧州特許公開公報 EP-A-379917 参照)、250 mm × 20 mm、溶出剤 酢酸エチル、流速 25 ml / 分、温度 23 °C、注入量 2500 μl、検出 254 nm。

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 2H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H); 8.4 (d, 1H) ppm.

[α]²⁰ = +3.3° (λ = 589 nm、ジクロロメタン、c = 535.0 mg / 1.0 ml)

[0119]

40

50

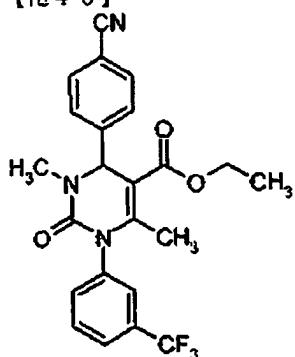
(44)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

実施例 2.3

(-) -エチル 4-(4-シアノフェニル)-3,6-ジメチル-2-オキゾ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化4.0】



19

100 mg (0. 23 mmol) の実施例 2.2 を THF 2 ml 中の 60% 水素化ナトリウム (鉱物油中の) 14 mg (0. 35 mmol) 懸濁液に加える。この混合物を室温で 2 時間攪拌する。次いで、29 mg (0. 23 mmol) の硫酸ジメチルを加え、次に、この混合物を室温で更に 2 時間攪拌する。次いで、水と酢酸エチルを加え、有機相を水および塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥し、次に、真空中で蒸発させ乾燥させる。生成物を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用い、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

20

収量：76 mg (74%)

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆) : δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 2.8 (s, 3H); 4.0 (q, 2H); 5.5 (s, 1H); 7.6 (m, 3H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 2H); 7.9 (m, 2H) ppm.

[α]_D²⁰ = -18.1° (λ = 589 nm, ジクロロメタン、c = 530.0 mg/100 ml)

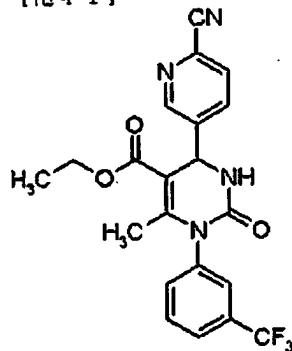
30

【0.12.0】

実施例 2.4

エチル 4-(6-シアノ-3-ピリジニル)-6-メチル-2-オキゾ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化4.1】



40

テトラヒドロフラン (5 ml) 中の実施例 3A (76 mg, 0. 58 mmol) の攪拌溶液に、3-オキソブタン酸エチル (75 mg, 0. 58 mmol)、N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素 (118 mg, 0. 58 mmol) およびボリリン酸エ

50

(45)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

チルエステル (200 mg; Cava et al., J. Org. Chem. 1969, 34, 2665の手順に従って新たに調製された) を加える。反応混合物を2日間(48時間)還流し、その後、溶液をDMSO (2 ml) で希釈し、次に、分取HPLCによって精製する。生成物フラクションを真空中で濃縮し、溶出剤としてシクロヘキサンと酢酸エチルを用いてシリカによるクロマトグラフィー処理を再びおこなう。

収量: 92 mg (理論収量の35%)

MS (ESI pos) : m/z = 431 (M+H)⁺

HPLC (方法4) = 4.63分

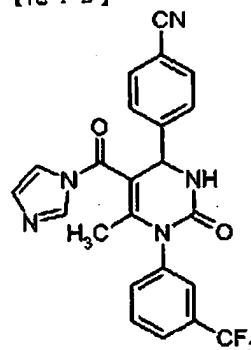
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 8.76 (s, 1H), 8.36 (d, 1H), 8.16-8.00 (m, 2H), 7.83-7.74 (m, 2H), 7.75-7.58 (m, 2H), 5.47 (d, 1H), 4.03 (quartet, 2H), 2.06 (s, 3H), 1.08 (t, 3H) ppm.

【0121】

実施例25

4-15-(1H-イミダゾール-1-イルカルボニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-4-ビリミジニル|ベンゾニトリル

【化42】



20

5 ml の乾燥ジメチルホルムアミド中の実施例11の化合物501 mg (1.25 mmol) 溶液に、567 mg (3.5 mmol) のN,N-カルボニルジイミダゾール (N,N-carbonyldiimidazole)を加える。この反応混合物を一晩放置した後、溶媒を真空中で蒸発して除去する。残渣を酢酸エチルに入れ、次に、水および塩水で洗浄する。硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を真空中で蒸発して除去する。

収量: 500 mg (理論収量の88.6%)

MS (EI) : m/z = 452 (M+H)⁺

¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.40 (d, 3H), 5.5 (d, 1H), 7.0 (s, 1H), 7.55-8.0 (m, 9H), 8.4 (s, 1H), 8.45 (d, 1H) ppm.

【0122】

実施例26

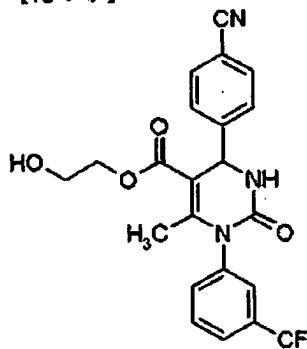
2-ヒドロキシエチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

40

(45)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化43】



19

実施例25の化合物45. 1mg (0. 1mmol) をエチレングリコール0. 5mlに加える。反応混合物を約100℃で1時間攪拌する。冷却後、この反応混合物を分取HPLC (カラム: Agilent Zorbax Extend C18 20mm×50mm、5μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0. 1%濃アンモニア; グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7. 1分 10%A、8分 10%A: 波長: 220nm; 注入量: 約500μl: 注入数 (number of injection): 1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空中で濃縮する。

収量: 2.2mg (理論収量の49.4%)

MS (E I) : m/z = 446 ($M + H$)⁺

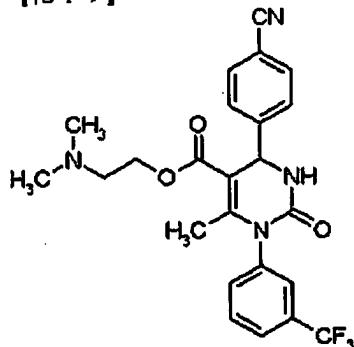
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.05 (d, 3H), 3.5 (quartet, 2H), 3.95–4.15 (m, 2H), 4.75 (tr, 1H), 5.45 (d, 1H), 7.55–7.75 (m, 5H), 7.75 (d, 1H), 7.85 (d, 2H), 8.35 (d, 1H) ppm.

【0123】

実施例27

2-(ジメチルアミノ)エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

【化44】



40

実施例25の化合物45. 1mg (0. 1mmol) を2-(ジメチルアミノ)エタノール0. 5mlに加える。反応混合物を約100℃で1時間攪拌する。冷却後、この反応混合物を分取HPLC (カラム: Agilent Zorbax Extend C18 20mm×50mm、5μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0. 1%濃アンモニア; グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7. 1分 10%A、8分 10%A: 波長: 220nm: 注入量: 約500μl) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空中で濃縮する。

(47)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

:注入数：1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空下で濃縮する。

収量：2.4 mg (理論収量の50.8%)

MS (E I) : m/z = 473 (M+H)⁺

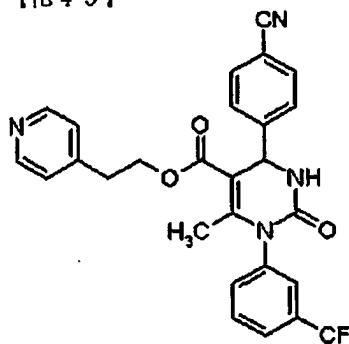
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆) : δ = 2.05 (d, 3H), 2.1 (s, 6H), 2.4 (m, 2H), 4.1 (m, 2H), 5.35 (d, 1H), 7.55 (d, 1H), 7.6 (d, 2H), 7.7 (m, 2H), 7.8 (d, 1H), 7.85 (d, 2H), 8.35 (d, 1H) ppm.

[0124]

実施例28

2-(4-ピリジニル)エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート ¹⁹

[化45]



20

実施例25の化合物45. 1 mg (0.1 mmol) を2-(4-ピリジニル)エタノール0.5 mlに加える。反応混合物を約100℃で1時間攪拌する。冷却後、この反応

混合物を分取HPLC (カラム：Agilent Zorbax Extend C18 20 mm × 50 mm, 5 μm; 溶媒A：アセトニトリル、溶媒B：水+0.1%醋酸モニア；グラジェント：0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7.1分 10%A、8分 10%A；波長：220 nm；注入量：約500 μl) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空下で濃縮する。 ³⁰

収量：1.7 mg (理論収量の33.5%)

MS (E I) : m/z = 507 (M+H)⁺

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆) : δ = 2.0 (d, 3H), 2.9 (tr, 2H), 4.3 (tr, 2H), 5.25 (d, 1H), 7.15 (d, 2H), 7.45 (d, 2H), 7.5 (d, 1H), 7.65 (tr, 2H), 7.8 (m, 3H), 8.35 (d, 1H), 8.4 (d, 2H) ppm.

[0125]

実施例29

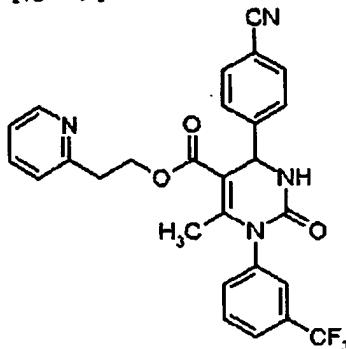
2-(2-ピリジニル)エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート ³¹

40

(48)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【化46】



19

実施例25の化合物45. 1mg (0. 1mmol) を2-(2-ピリジニル)エタノール0. 5mlに加える。反応混合物を約100℃で1時間攪拌する。冷却後、この反応混合物を分取HPLC (カラム: Agilent Zorbax Extend C18 20mm×50mm, 5μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0. 1%アンモニア; グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7. 1分 10%A、8分 10%A; 波長: 220nm; 注入量: 約500μl; 注入数: 1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空中で濃縮する。

収量: 2.2mg (理論収量の43. 4%)

MS (EI): m/z = 507 (M+H)⁺

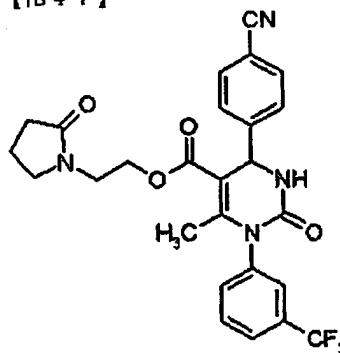
¹H-NMR (300MHz, DMSO-d₆): δ = 2.0 (d, 3H), 2.9 (tr, 2H), 4.3 (tr, 2H), 5.25 (d, 1H), 7.15 (d, 2H), 7.45 (d, 2H), 7.5 (d, 1H), 7.65 (tr, 2H), 7.8 (m, 3H), 8.35 (d, 1H), 8.4 (d, 2H) ppm.

【0126】

実施例30

2-(2-オキソ-1-ピロリジニル)エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

【化47】



40

実施例25の化合物45. 1mg (0. 1mmol) を1-(2-ヒドロキシエチル)-2-ピロリジノン0. 5mlに加える。反応混合物を約100℃で1時間攪拌する。冷却後、この反応混合物を分取HPLC (カラム: Agilent Zorbax Extend C18 20mm×50mm, 5μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0. 1%アンモニア; グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7. 1分 10%A、8分 10%A; 波長: 220nm; 注入量 50

(49)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

：約 $500\mu\text{l}$ ；注入数：1）によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空下で濃縮する。

収量：2.5 mg (理論収量の48.8%)

MS (EI) : m/z = 513 ($M + H$)⁺

¹H-NMR (300 MHz, CDCl₃-d₆): δ = 1.8 (quintet, 2H), 2.0 (d, 3H), 2.1 (tr, 2H), 3.2 (tr, 2H), 3.4 (tr, 2H), 4.0–4.2 (m, 2H), 5.35 (d, 1H), 7.55 (d, 1H), 7.6 (d, 2H), 7.7 (tr, 2H), 7.8 (d, 1H), 7.9 (d, 2H), 8.4 (d, 1H) ppm.

[0127]

実施例14–16の手順に準じて、次の化合物を製造する。

【表2】

実施例番号	構造	出発原料	収量 (%)	R _f 分 (方法)	質量分析 ($M + H$) ⁺
31		実施例1: プロモ酢酸ニタル	85	4.01 (1)	516
32		実施例1: シクロプロパンカルボニルクロリド	79	4.09 (1)	498
33		実施例1: プロモエタン	15	4.28 (2)	458
34		実施例1: 4-モルホリンカルボニルクロリド	97	3.97 (2)	543

19

20

30

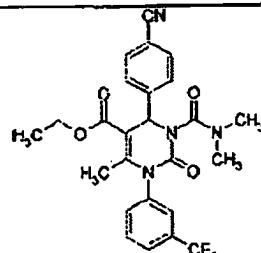
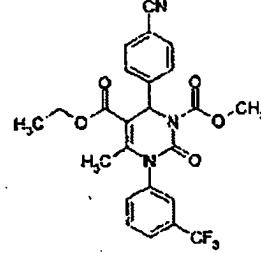
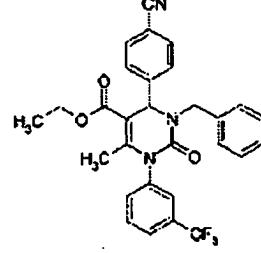
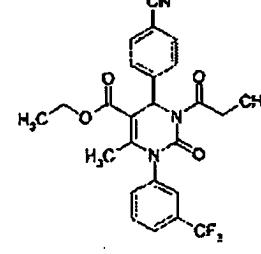
40

50

(50)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【表3】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
35		実施例 1; ジメチルカルバミン酸 クロリド (dimethylcarbamic chloride)	98	4.00 (2)	523 [M+Na] ⁺
36		実施例 1; メチル クロリド カルボナート (methyl chloridocarbonate)	96	4.10 (2)	488
37		実施例 1; ベンジルブロミド	58	4.59 (2)	520
38		実施例 1; プロパノイルクロリド	43	4.42 (2)	486

10

20

30

40

(51)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【表4】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _i [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
39		実施例 1; 2-メトキシ エチル クロリド カルボナート (2-methoxyethyl chloridecarbonate)	95	4.12 (2)	532
40		実施例 1; イソプロピル クロリド カルボナート (isopropyl chloride carbonate)	67	4.55 (2)	500
41		実施例 1; ジエチルカルバミン酸 クロリド (diethylcarbamoyl chloride)	18	4.25 (2)	529
42		実施例 1; メチル (メチルスルホニル) カルバミン酸クロリド (methyl (methyl- sulfonyl)- carbamoyl chloride)	40	4.10 (2)	565

10

20

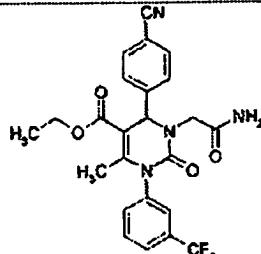
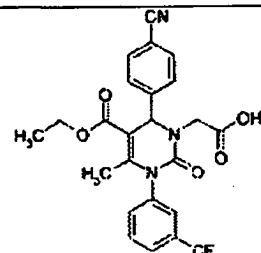
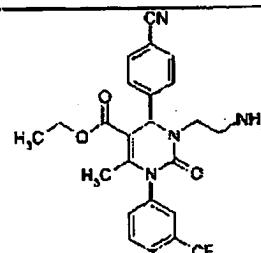
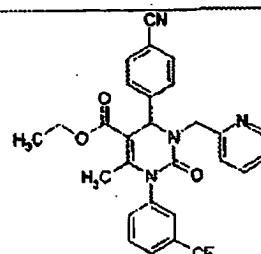
30

40

(52)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【表5】

実施例番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _d (分) (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
43		実施例1; 2-ブロモアセトアミド; 2.5当量 (equiv.) 水素化ナトリウム	54	3.7 (3)	487
44		実施例1; 2-ブロモ酢酸; 2.5当量 (equiv.) 水素化ナトリウム	67	3.8 (3)	488
45		実施例1; 2-ブロモ エタンアミン・ ヒドロブロミド; 2.5当量 (equiv.) 水素化ナトリウム	28	2.9 (2)	473
46		実施例1; 2-(クロロメチル) ピリジン塩酸塩; 2.5当量 (equiv.) 水素化ナトリウム	37	4.0 (3)	521

10

20

30

40

(53)

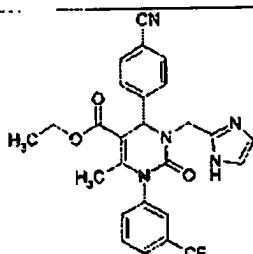
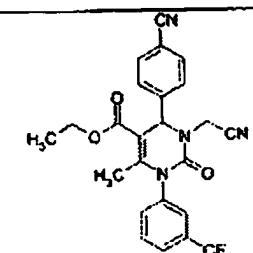
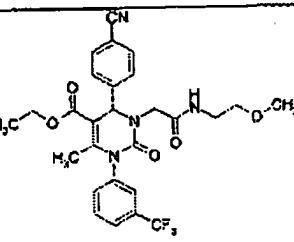
JP 2005-507355 A 2006.3.2

【表6】

(54)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【表7】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
51		実施例1: 2-(プロモメチル) -1H-イミダゾール・ ヒドロプロミド; 2.5当量 (equiv.) 水素化ナトリウム	6	2.97 (2)	510
52		実施例1: 3-(クロロメチル) -1,2,4 オキサジアゾール	37	4.0 (3)	469
53		実施例1: 2-ブロモ-N-(2-メトキシエチル) -アセトアミド	91	3.77 (2)	545

【0128】

実施例6-8の手順に準じて、次の化合物を製造する。

(55)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【表 8】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _f [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
54		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; メチル 3-オキソブタノアート	79	3.68 (2)	416
55		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; シクロプロピルメチル 3-オキソブタノアート	58	4.09 (2)	436
56		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; イソプロピル 3-オキソブタノアート	85	4.03 (2)	444
57		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; (1R)-2-メトキシ-1-メチル-2-オキソエチル 3-オキソブタノアート	73	3.82 (2)	488

10

20

30

40

(56)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【表9】

実施例番号	構造	出発原料	収量[%]	R _t [分](方法)	質量分析 [M+H] ⁺
58		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; N, N-ジメチル-3-オキソブタノンアミド	9	3.22 (2)	429

19

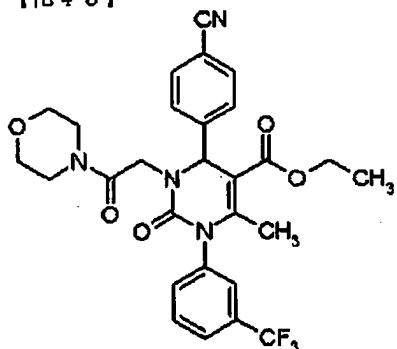
【0129】

実施例59

エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-3-[2-(4-モルホリニル)-2-オキソエチル]-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化48】

20



30

80 mg (0.16 mmol) の実施例44を2mLのジメチルホルムアミドに溶解し、16 mg (0.18 mmol) のモルホリン、24 mg (0.18 mmol) の1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール水和物および20 mg (0.16 mmol) の4-ジメチルアミノピリジンを加える。反応混合物を0°Cで攪拌し、次いで、3.5 mg (0.18 mmol) の1-(3-ジメチルアミノプロピル)-3-エチルカルボジイミド塩酸塩を加える。この反応混合物を室温で18時間攪拌し、次いで、水と酢酸エチルを加える。有機相を硫酸ナトリウムで乾燥し、真空下で蒸発させ乾燥する。必要に応じて、生成物を更にカラムクロマトグラフィーまたは分取HPLCによって精製する。

40

収量: 78 mg (85 %)

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.0 (s, 3H); 3.4 (m, 4H); 3.6 (m, 4H); 3.7 (d, 1H); 4.1 (m, 2H); 4.5 (d, 1H); 5.5 (s, 1H); 7.6 (m, 5H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 2H) ppm.

【0130】

実施例59の手順に準じて、次の化合物を製造する：

(57)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

[表10]

[0131]

実施例6-8の手順に準じて、次の化合物を製造する。

(58)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

[表 1-1]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
63		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1-(3-メチル-1,2,4-オキサジアゾール-5-イル)アセトン	23	3.80 (3)	440
64		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1-(1,3-ベンゾチアゾール-2-イル)アセトン	23	4.42 (2)	491
65		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 5-メチル-2,4-ヘキサンジオン	33	4.3 (1)	429
66		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1-メトキシ-2,4-ペンタンジオン	3	3.47 (2)	430

10

20

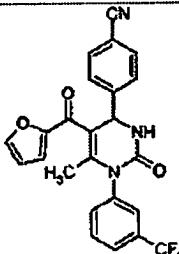
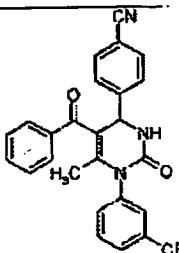
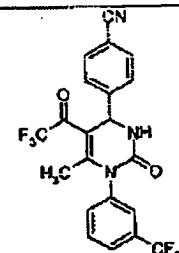
30

40

(59)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

[表12]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 (M+H) ⁺
67		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1-(2-フリル)-1,3-ブタンジオン	13	3.70 (2)	452
68		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1-フェニル-1,3-ブタンジオン	14	4.03 (2)	462
69		N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素; 4-シアノベンズアルデヒド; 1,1,1-トリフルオロ-2,4-ペンタジオン	5	3.9 (3)	454

10

20

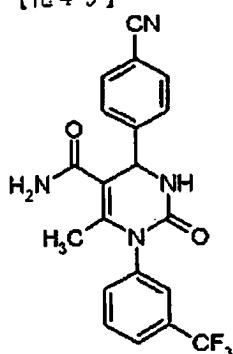
30

【0132】

実施例 70

4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキサミド

【化49】



40

200 mg (0.5 mmol) の実施例 11 を 5 mL のテトラヒドロフランに溶解し、⁵⁰

(60)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

次に、6 mg (0. 05 mmol) の 4-N, N-ジメチルアミノピリジン、77 mg (0. 6 mmol) の N, N-ジイソブロピルエチルアミンおよび 115 mg (0. 6 mmol) のベンゾトリアゾール-1-イルオキシートリス(ピロリジノ)ホスホニウムヘキサフルオロホスファート(benzotriazol-1-yloxy-tris(pyrrolidino)phosphonium hexafluorophosphate)を加える。反応混合物を室温で 15 分間攪拌し、次いで、5 mL (2. 5 mmol) のアンモニア(ジオキサン中で 0. 5 M 溶液として)を加える。この反応混合物を室温で 1 時間攪拌し、次いで、水と酢酸エチルを加える。有機相を硫酸ナトリウムで乾燥し、真空下で蒸発させて乾燥する。生成物を分取 HPLC によって更に精製する。

収量：55 mg (理論収量の 28 %)

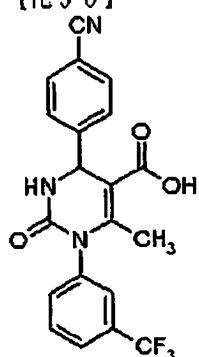
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.8 (s, 3H); 5.4 (d, 1H); 7.2 (br. s, 1H); 7.4 (br. s, 1H); 7.6 (m, 5H); 7.7 (m, 1H); 7.9 (m, 2H); 8.1 (d, 1H) ppm.

【0133】

実施例 7.1

(+) - 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボン酸

【化50】



20

実施例 1.1 のエナンチオマーをキラル相分取 HPLC [カラム KED 8361 (モノマ - N-メタクリロイル-L-ロイシン-1-メンタルアミドに基づくキラルシリカゲル 35 セレクター、欧州特許公開公報 EP-A-379917 参照)、250 mm × 20 mm、溶出剤：酢酸エチル-メタノール-酢酸エチル、流速 25 mL/分、温度 23°C、検出 254 nm] によって分離する。

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.0 (s, 3H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 1H); 7.6 (m, 2H); 7.7 (m, 1H); 7.8 (m, 1H); 7.9 (m, 3H); 8.3 (d, 1H); 12.5 (s, 1H) ppm.

[α]_D²⁰ = +2.5° (λ = 589 nm、メタノール、c = 505 mg/100 mL)

【0134】

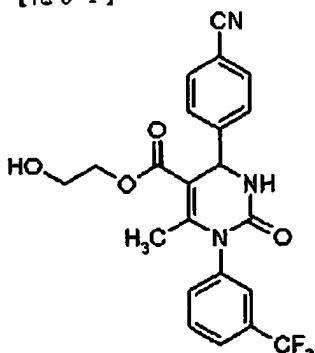
実施例 7.2

(+) - 2-ヒドロキシエチル-4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

(61)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化51】



アルゴン下で、1560 mg (3.89 mmol) の実施例71の化合物を19.6 ml のDMFに加える。1.095 ml (7.86 mmol) のトリエチルアミンおよび1.11 ml (15.7 mmol) の2-ブロモエタノールを加えた後、反応混合物を約70°Cで8時間攪拌する。冷却後、この反応混合物を真空中で濃縮する。残渣を酢酸エチルに入れ、次に、水で洗浄する。硫酸マグネシウムで乾燥した後、有機相を真空中で蒸発させる。この残渣を8 ml のメタノールに入れ、次に、分取HPLC (カラム: Nucleosil 100-5 C18 Nautillus, 20×50 mm, 5 μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0.3%ギ酸: グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7.1分 10%A、8分 10%A; 波長: 220 nm; 注入量: 約500 μl; 注入数: 18) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、凍結乾燥する。

収量: 1290 mg (理論収量の74.5%)

MS (EI): $m/z = 446 (M + H)^+$

$^1\text{H-NMR}$ (300 MHz, DMSO-d₆): $\delta = 2.05$ (d, 3H); 3.5 (quartett, 2H); 3.95-4.15 (m, 2H); 4.75 (tr, 1H); 5.45 (d, 1H); 7.55-7.75 (m, 5H); 7.75 (d, 1H); 7.85 (d, 2H); 8.35 (d, 1H) ppm.

[α] ²⁰ = +14.3° ($\lambda = 589 \text{ nm}$ 、メタノール、c = 455 mg/100 ml)

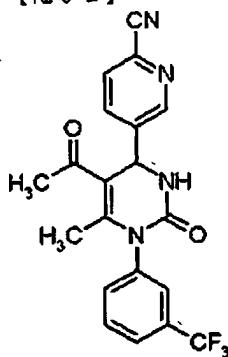
)

【0135】

実施例73

5-[5-アセチル-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-4-ピリミジニル]-2-ピリジンカルボニトリル

【化52】



テトラヒドロフラン (5 ml) 中の実施例3A (75 mg, 0.57 mmol) の攪拌

(52)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

溶液に、2, 4-ペンタンジオン (5.7 mg, 0. 57 mmol)、N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素 (11.6 mg, 0. 57 mmol) およびポリリン酸エチルエステル (20.0 mg) [Cava et al., J. Org. Chem. 34, 2665 (1969) の手順に従って新たに調製された]を加える。反応混合物を24時間還流し、その後、溶液をDMSO (2 ml) で希釈し、次に、分取HPLCによって精製する。

収量: 1.01 mg (理論収量の4.4%)

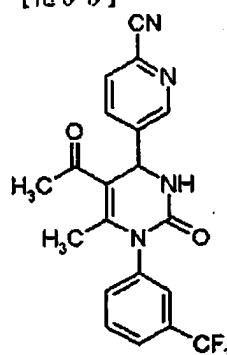
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.02 (s, 3H); 2.24 (s, 3H); 5.54 (d, 1H); 7.52-7.90 (m, 4H); 8.08 (d, 2H); 8.50 (d, 1H); 8.81 (s, 1H) ppm.

【0136】

実施例74

(+)-5-[5-アセチル-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-4-ピリミジニル]-2-ピリジンカルボニトリル

【化53】



10

20

30

実施例73のエナンチオマーをキラル相分取HPLC [カラムKBD8361 (モノマ- N-メタクリロイル-L-ロイシン-1-メンタルアミドに基づくキラルシリカゲルセレクター、欧州特許公開公報EP-A-379917参照)、250 mm × 20 mm、溶出剤: 酢酸エチル-メタノール-酢酸エチル、流速 25 ml/分、温度 23°C、検出 254 nm] によって分離する。

MS (ESI pos): m/z = 401 (M+H)⁺

[α]²⁰ = +25.1° (δ = 589 nm、メタノール、c = 5.05 mg/100 ml)

【0137】

実施例75

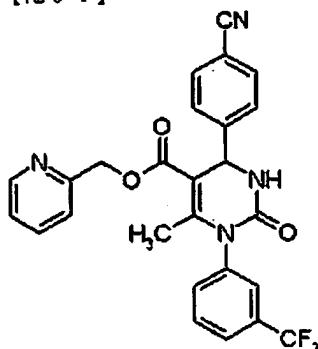
2-(2-ピリジニル)メチル-4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

40

(63)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【化54】



19

0.4m lの乾燥ジメチルホルムアミド中の実施例11の化合物40. 1mg (0.1mmol) 溶液に、48.6mg (0.3mmol) のN, N-カルボニルジイミダゾールを加える。この反応混合物を1時間放置した後、この反応混合物を水で希釈し、次に、ジクロロメタンで抽出する。硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を真空下で蒸発して除去する。この残渣に、0.5m lの(2-ビリジニル)メタノールを加える。この反応混合物を約100°Cで1時間攪拌する。冷却後、反応混合物を分取HPLC (カラム: Nu cleosil 100-5 C18 Nautilus 20mm×50mm, 5μm²⁰ : 溶媒A:アセトニトリル、溶媒B:水+0.1%ギ酸；グラジェント:0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7.1分 10%A、8分 10%A；流速 2.5m l/min；波長: 220nm；注入量: 約550μl；注入数: 1)によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空下で濃縮する。

収量: 1.7mg (理論収量の34.5%)

MS (E I) : m/z = 493 (M + H)⁺

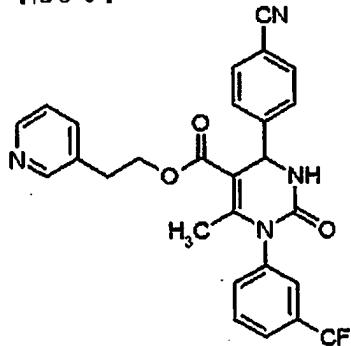
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.1 (d, 3H); 5.15 (dd, 2H); 5.45 (d, 1H); 7.05 (d, 1H); 7.3 (dd, 1H); 7.5-7.85 (m, 9H); 8.35 (d, 1H); 8.5 (d, 2H) ppm.

【0138】

実施例7.6

2-(3-ビリジニル)エチル 4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ビリミジンカルボキシラート

【化55】



30

40

0.57m lの乾燥ジメチルホルムアミド中の実施例11の化合物60. 2mg (0.15mmol) 溶液に、72.9mg (0.45mmol) のN, N-カルボニルジイミダゾールを加える。この反応混合物を1時間放置した後、この反応混合物を水で希釈し、次に、酢酸エチルで抽出する。硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を真空下で蒸発させ⁵⁰

て除去する。この残渣に、185 mg (1.5 mmol) の2-(3-ピリジル)エタノールおよび20 μl (0.27 mmol) のトリエチルアミンを加える。反応混合物を100°Cで1時間攪拌する。次いで、この反応混合物を0.4 mlのメタノールで希釈し、濾過し、次に、分取HPLC (カラム: Nucleosil 100-5 C18 Nautilus 20 mm × 50 mm, 5 μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水 + 0.1% ギ酸; グラジエント: 0分 10% A、2分 10% A、6分 90% A、7分 90% A、7.1分 10% A、8分 10% A; 流速 2.5 ml/min; 波長: 220 nm; 注入量: 約550 μl; 注入数: 1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空下で濃縮する。

収量: 44 mg (理論収量の57.9%)

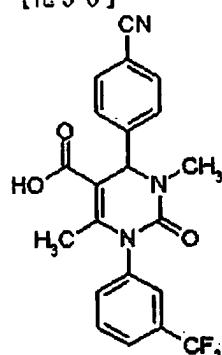
LC-MS (EI、方法5): m/z = 507 (M+H)⁺, R_t = 3.19分

[0139]

実施例77

4-(4-シアノフェニル)-3,6-ジメチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボン酸

[化56]



4.1 g (9.25 mmol) の実施例14を100 mlのエタノールに溶解する。この溶液に、水に溶解した水酸化カリウム (2.5重量%) 溶液6.2 ml (2.7, 6 mmol) を加える。反応混合物を室温で18時間放置する。次いで、更に、水に溶解した水酸化カリウム (2.5重量%) 溶液12.4 ml (55.2 mmol) を加え、反応混合物を2時間攪拌する。この反応混合物を水で希釈し、酢酸エチルで3回抽出する。水相を1N 塩酸で酸性にし、次いで、酢酸エチルで抽出する。この最後の抽出物を硫酸マグネシウムで乾燥し、真空下で蒸発させる。残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用い、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 1.5 g (理論収量の39%)

MS (EI): m/z = 416 (M+H)⁺

¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.0 (s, 3H); 2.8 (s, 3H); 5.5 (d, 1H); 7.6-7.8 (m, 6H); 7.9 (d, 2H); 12.6 (s, 1H) ppm.

[0140]

実施例76の手順に準じて、次の化合物を製造する。

(65)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

[表13]

実施例番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
78		実施例1 1; 3-ビリジニルメタノール	56.9	3.45 (S)	493
79		実施例1 1; 2-ヒドロキシアセトアミド ^b	61.1	3.58 (S)	459
80		実施例1 1; 2-ヒドロキシエチル-(メチル)ホルムアミド	80.9	3.5 (S)	487
81		実施例1 1; 2-ヒドロキシエチルアセトアミド	56.2	3.44 (S)	487

10

20

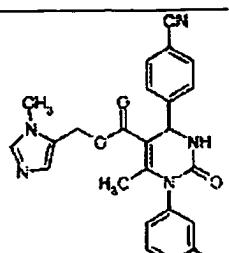
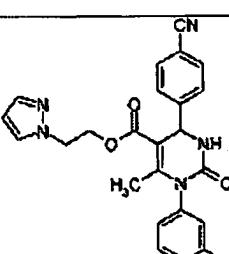
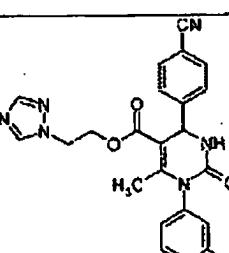
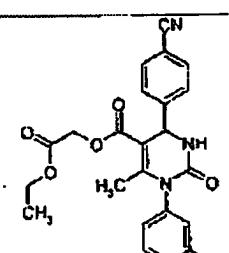
30

40

(66)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

[表14]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
82		実施例11; (1メチル-1H-イミダゾール-5-イル) メタノール ^a	45.8	2.87(5)	496
83		実施例11; 2-(1H-ピラゾール-1-イル)エクノール	60.6	3.7(5)	496
84		実施例11; 2-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル) エタノール ^b	67.1	3.48(5)	497
85		実施例11; 2-ヒドロキシエチル アセタート (2-hydroxyethyl acetate)	56.1	3.98(5)	488

10

20

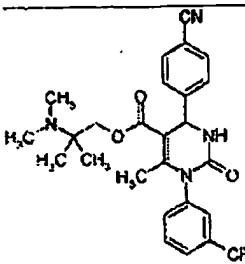
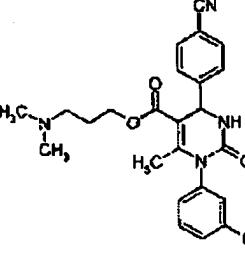
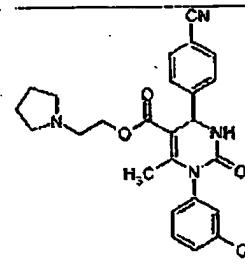
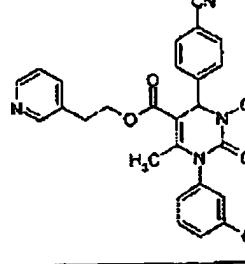
30

40

(67)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

[表15]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
86		実施例1 1; 2-(ジメチルアミノ)-2- メチル-1-プロパノール	34.6	2.9 (S)	502
87		実施例1 1; 3-(ジメチルアミノ) プロパノール	54.8	2.86 (S)	487
88		実施例1 1; 2-(1-ピロリジニル) エタノール	56.2	2.86 (S)	500
89		実施例7 7; 2-(3-ピリジニル) エタノール	58.9	3.36 (S)	522

16

20

30

40

(68)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

【表16】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
90		実施例77; (3-ピリジニル)メタノール	61.9	3.64 (5)	507
91		実施例77; 2-ヒドロキシアセトアミド ⁹⁾	53.6	3.54 (5)	473
92		実施例77; 2-ヒドロキシエチル-(メチル)ホルムアミド	54.6	3.68 (5)	501
93		実施例77; 2-ヒドロキシエチルアセトアミド	66.6	3.59 (5)	501

10

20

30

40

(69)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【表17】

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
94		実施例77; (1-メチル-1H-イミダゾール-5-イル) メタノール ⁱⁱ	34.0	3.02 (S)	510
95		実施例77; 2-(1H-ピラゾール-5-イル)エタノール	61.5	3.91 (S)	510
96		実施例77; 2-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル) エタノール ⁱⁱ	71.8	3.64 (S)	511
97		実施例77; 2-ヒドロキシエチル アセート	53.2	4.12 (S)	502

10

20

30

40

(70)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

[表 18]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R _t [分] (方法)	質量分析 [M+H] ⁺
98		実施例77; 2-(ジメチルアミノ) -2-メチル-1 -プロパンール	25.9	3.02 (5)	516
99		実施例77; 3-(ジメチルアミノ) ブロパノール	54.6	2.98 (5)	502
100		実施例77; 2-(1-ピロリジニル) エタノール	55.9	2.98 (5)	514
101		実施例77; (2-ピリジニル)メタノール	67.1	3.91 (5)	507

この場合、使用されるアルコールは固体であり、反応は 0.4 ml の DMF の存在下でおこなわれる。

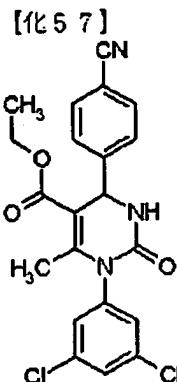
[0141]

案端例102

エチル 4-(4-シアノフェニル)-1-(3,5-ジクロロフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

(71)

JP 2006-507355 A 2006.3.2



16

アルゴン下で、30.8 mg (0.15 mmol) のN-(3,5-ジクロロフェニル)尿素を0.5 mlのジオキサン中の39.3 mg (0.3 mmol) の4-ホルミルベンゾニトリル、39 mg (0.3 mmol) のエチル 3-オキソブタノアートおよび90 mgのトリメチルシリルポリホスファート(trimethylsilyl polyphosphate)とともに、80°Cで4時間攪拌する。少量のDMSOを添加した後、この反応混合物を濾過し、次に分取HPLC (カラム: Agilent Zorbax Extend C18 20 mm×50 mm, 5 μm; 溶媒A: アセトニトリル、溶媒B: 水+0.1%濃アンモニア水; グラジエント: 0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7.1分 10%A、8分 10%A; 流速 2.5 ml/分; 波長: 220 nm; 注入量: 約500 μl; 注入数: 1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空中で濃縮する。

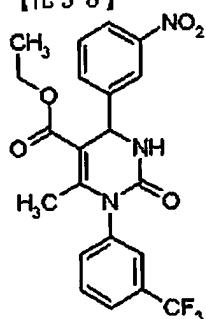
収量: 38.1 mg (理論収量の59%)
LC-MS (EI、方法7) : m/z = 431 (M+H)⁺, R_f = 4.14分

【0142】

実施例103

エチル 6-メチル-4-(3-ニトロフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロ-5-ピリミジンカルボキシラート

【化58】



40

30.6 mg (0.15 mmol) のN-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素を、0.5 mlのジオキサンと0.1 mlのDMF中の45.3 mg (0.3 mmol) の3-ニトロベンズアルデヒド、39 mg (0.3 mmol) のエチル 3-オキソブタノアートおよび90 mgのポリリン酸エチルエステル [Cava et al., J. Org. Chem. 34, 2665 (1969) の手順に従って新たに調製された] とともに、80°Cで18時間振とうする。200 μlのDMFを添加した後、この反応混合物を濾過し、分取HPLC (カラム: Nucleosil 100-5 C18 Naut 59

(72)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

ilas 20 mm × 50 mm、 $5 \mu\text{m}$ ：溶媒A：アセトニトリル、溶媒B：水 + 0.1 % 酢酸；グラジエント：0分 10%A、2分 10%A、6分 90%A、7分 90%A、7.1分 10%A、8分 10%A；流速 25 ml/分；波長：220 nm；注入量：約 800 μl ；注入数：1) によって精製する。生成物を含んでいるフラクションを集め、真空中で濃縮する。

収量：3.4 mg (理論収量の 5.0. 4%)

LC-MS (E I、方法 6) : $m/z = 450 (\text{M}+\text{H})^+$ 、 $R_t = 3.94$ 分
[0143]

実施例 102 の手順に準じて、次の化合物を製造する。

[表 19]

実施例 番号	構造	出発原料	収量 [%]	R_t [分] (方法)	質量分析 $(\text{M}+\text{H})^+$
104		N-(3-ニトロフェニル)尿素; 4-クロロベンズアルデヒド; エチル 3-オキソブタノアート	70.6	3.65 (6)	417
105		N-(3-ニトロフェニル)尿素; 3-ニトロベンズアルデヒド; エチル 3-オキソブタノアート	61.3	3.61 (6)	427
106		N-(3-ニトロフェニル)尿素; 4-フルオロベンズアルデヒド; エチル 3-オキソブタノアート	56.8	3.63 (6)	400
107		N-(3-ニトロフェニル)尿素; 4-ブロモベンズアルデヒド; ニチル 3-オキソブタノアート	69.5	4.02 (5)	461

10

20

30

40

50

(73)

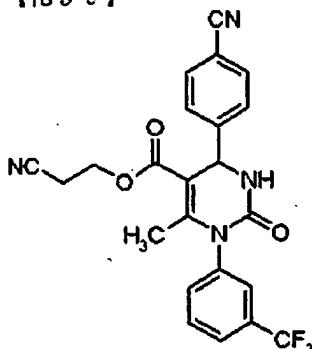
JP 2006-507355 A 2006.3.2

【0144】

実施例108

4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロピリミジン-5-カルボン酸 2-シアノエチルエステル

【化59】



19

9.87 g (48.3 mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、12.68 g (96.68 mmol) の 4-シアノベンズアルデヒド、1.5 g (96.68 mmol) の (2-シアノエチル)-3-オキソブタノアート((2-cyanoethyl) 3-oxobutanoate) および 37.5 g の ポリリン酸エチルエステルを 250 ml の THF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で 1.8 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空下で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用い、シリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

20

収量：2.5 g (理論収量の 100 %)

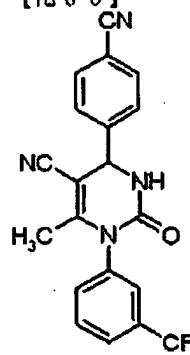
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 2.1 (s, 3H); 2.8 (m, 2H); 4.2 (m, 2H); 5.4 (d, 1H); 7.6 (m, 4H); 7.7 (m, 2H); 7.9 (m, 2H); 8.5 (d, 1H) ppm.

【0145】

実施例109

4-(4-シアノフェニル)-6-メチル-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロピリミジン-5-カルボニトリル

【化60】



30

0.609 g (1.52 mmol) の 実施例70 を 60 ml の THF に溶解し、1.24 g (12.93 mmol) の (メトキシカルボニルスルファモイル)-トリエチルアンモニウム-N-ベタイン ((methoxycarbonylsulfamoyl)-triethylammonium-N-betaine) を加える。反応混合物を室温で 1 時間攪拌し、溶媒を真空下で除去し、次いで、残渣を溶出剤としてジクロロメタン/メタノール混合液を用いたシリカによるカラムクロマトグラフ

40

50

(74)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

イーによって精製する。

収量：249mg（理論収量の43%）

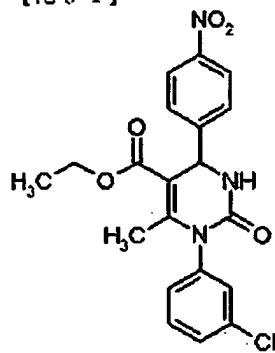
¹H-NMR (300 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.8 (s, 3H); 5.4 (d, 1H); 7.7 (m, 4H); 7.8 (m, 2H); 8.0 (m, 2H), 8.4 (d, 1H) ppm.

【0146】

実施例110

エチル 6-メチル-4-(4-ニトロフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロピリミジン-5-カルボキシラート

【化61】



19

20

7.84g (38.4mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、5.81g (38.4mmol) の 4-ニトロベンズアルデヒド、5.0g (38.4mmol) のエチル 3-オキソブタノアートおよび 15g のポリリン酸エチルエステルを 100mL の THF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で 18 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶媒を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてトルエン/酢酸エチルを用いたシリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量：8.75g（理論収量の51%）

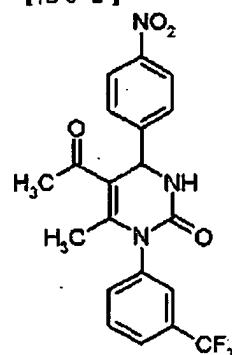
¹H-NMR (200 MHz, DMSO-d₆): δ = 1.1 (t, 3H); 2.1 (s, 3H); 4.0 (m, 2H); 5.4 (d, 1H); 7.5-7.8 (m, 6H); 8.3 (m, 2H); 8.5 (d, 1H) ppm.

【0147】

実施例111

5-アセチル-6-メチル-4-(4-ニトロフェニル)-2-オキソ-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-1,2,3,4-テトラヒドロピリミジン

【化62】



40

0.407g (2.0mmol) の N-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]尿素、0.302g (2.0mmol) の 4-ニトロベンズアルデヒド、0.2g (2.0mL) 50

(75)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

mol) の 2, 4-ペンタンジオンおよび 0.4 g のポリリン酸エチルエステルを 20 mL の THF 中で懸濁させる。この混合物を還流下で 18 時間攪拌する。室温まで冷却した後、溶液を真空中で除去し、残渣を溶出剤としてシクロヘキサン/酢酸エチルを用いたシリカによるカラムクロマトグラフィーによって精製する。

収量: 0.302 g (理論収量の 36 %)

$^1\text{H-NMR}$ (200 MHz, DMSO- d_6): $\delta = 2.0$ (s, 3H); 2.2 (s, 3H); 5.5 (d, 1H); 7.5-7.8 (m, 6H); 8.3 (m, 2H); 8.5 (d, 1H) ppm.

[0148]

C. 医薬組成物に関する適切な使用例

本発明化合物は、次のように医薬製剤に変換することができる。

10

錠剤

組成

実施例 1 の化合物 100 mg、乳糖 (一水和物) 50 mg、トウモロコシ澱粉 (天然) 50 mg、ポリビニルピロリドン (PVP 25) (BASF, Ludwigshafen, Germany) 10 mg およびステアリン酸マグネシウム 2 mg。

錠剤重量 212 mg、直径 8 mm、曲率半径 12 mm。

製造

活性成分、乳糖および澱粉の混合物を、水に溶かした 5% PVP 溶液 (m/m) で顆粒化する。顆粒を、乾燥し、次いで、5 分間、ステアリン酸マグネシウムと混合する。この混合物を、慣用の錠剤圧縮機で、成型する (錠剤のフォーマット: 上記参照)。適用される成型力 (moulding force) は、標準的には 15 kN である。

[0149]

経口投与用懸濁液

組成

実施例 1 の化合物 1000 mg、エタノール (96%) 1000 mg、ロジゲル (Rhodigel (キサンタンゴム (FMC、ペンシルバニア、U.S.A.)) 400 mg および水 99 g。

本発明による化合物 1 回分の投与量 100 mg は、10 mL の経口用懸濁液によって提供される。

20

製造

ロジゲルをエタノール中で懸濁し、そして、活性成分を懸濁液に加える。水を攪拌しながら加える。ロジゲルが完全に膨潤する (swelling) まで、攪拌を約 6 時間続ける。

(75)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

【國際調查報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT						
						Examination Application No PCT/EP 03/09525
A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER						
IPC 7		C07D239/22	C07D401/04	C07D401/12	C07D403/08	C07D403/12
		C07D405/08	C07D413/04	C07D413/06	A61K31/513	A61K31/5377
		A61P9/00				
According to International Patent Classification (IPC) or to both regional classification and IPC						
B. FIELDS SEARCHED						
Minimum documentation reported (priorities are indicated by classification numbers)						
IPC 7 C07D A61K						
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are indicated in the fields searched						
Computer data base consulted during the International search (name of data base and, where practical, search terms used)						
EPO-Internal, WPI Data, PAJ, CHEM ABS Data						
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT						
Category*	Content of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages				Statement in which doc.	
X	<p>FRECHET J H J ET AL: "A Combinatorial Approach to Recognition of Chirality: Preparation of Highly Enantioselective Aryl-Dihydropyrimidine Selectors for Chiral HPLC". <i>JOURNAL OF COMBINATORIAL CHEMISTRY</i>, AMERICAN CHEMICAL SOCIETY, WASHINGTON, US, vol. 1, no. 1, 1999, pages 105-112, XP002267474 ISSN: 1520-4766 Scheme 1, entry 27 of table 1, page 110, column 2, paragraph 2</p>				1-3, 6, 9-11, 14, 25	
A	<p>EP 0 528 633 A (ICI PLC) 24 February 1993 (1993-02-24) page 2, line 1 - line 18; claims 1, 13 ---</p>				1-21	
					-/-	
<input checked="" type="checkbox"/>	Further documents referred to in the continuation of box C.				<input checked="" type="checkbox"/> Patent family members are listed in annex	
<p>* Special categories of cited documents:</p> <ul style="list-style-type: none"> "A" document relating the general state of art, and which is not considered to be of particular relevance; "B" earlier document published on or after the International filing date; "T" document which may later decide on patentability as far as claimed in the publication; also if auxiliary claim or other special reason (not expanded); "C" documents relating to one or more applications, see, exhibition or other notice; "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date cited; 						
<p>T: later documents published after the International filing date or priority date and in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention;</p> <p>X: document of particular relevance; the claimed invention can be anticipated or cannot be considered to involve an inventive step when the claimed invention is compared to one or more other such documents, and combination being obvious to a person skilled in the art;</p> <p>-/-: document member of the same patent family;</p> <p>C: case of sealing of the International search report</p>						
Date of the actual completion of the International search				Completion date of the International search report		
21 January 2004				12/02/2004		
Name and mailing address of the ISA						
European Patent Office, P.O. Box 5010 Patenten 2 NL - 2200 HR Rijswijk, Tel: +31 70 3400 3000; Fax: +31 70 3400 3075						
Authorized officer						
Manisch, J						

(72)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		
		International Application No. PCT/EP 03/09525
C(Only one) DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category	Citation of document, with indication, where appropriate, of relevant passages	Relevant to claim no.
A	WO 01 57837 A (SMITHKLINE BEECHAM CORP ;UNDERWOOD DAVID C (US); ADAMS JERRY L (US) 31 May 2001 (2001-05-31) page 16, line 29 -page 18, line 23; claims 1,12; examples 13,14	1-21
A	US 5 592 366 A (WARRIOR PETER ET AL) 2 July 1996 (1996-07-02) column 1, line 4 - line 31; claim 1	1-21

Form PCT/ISA/2000 (continuation of International Search Report)

page 2 of 2

(78)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

INTERNATIONAL SEARCH REPORT	International application No. PCT/EP 03/09525
Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 1 of first sheet)	
<p>This International Search Report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(g) for the following reasons:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <input checked="" type="checkbox"/> Claims Nos.: because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely: see FURTHER INFORMATION sheet PCT/ISA/210 2. <input type="checkbox"/> Claims Nos.: because they relate to parts of the International Application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful International Search can be carried out, specifically: 3. <input type="checkbox"/> Claims Nos.: because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6(4)(a). 	
Box II Observations where utility of invention is lacking (Continuation of item 2 of first sheet)	
<p>This International Searching Authority found multiple inventors in this international application, as follows:</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. <input type="checkbox"/> As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this International Search Report covers all searchable claims. 2. <input type="checkbox"/> As all examinable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee. 3. <input type="checkbox"/> As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this International Search Report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.: 4. <input type="checkbox"/> No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this International Search Report is referred to the invention that is mentioned in the claims. It is covered by claim No.: 	
<p>Remark on Protocol</p> <p><input type="checkbox"/> The additional search fees were accompanied by the applicant's PCT/ISA/210.</p> <p><input type="checkbox"/> No protocol accompanied the payment of additional search fees.</p>	

Form PCT/ISA/210 (continuation of last sheet (7)) (July 1996)

(79)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

International Application No. PCT/EP 03/09525

FURTHER INFORMATION CONTINUED FROM PCT/AS/N 210

Continuation of Box I.1

Although claim 21 is directed to a method of treatment of the human/animal body, the search has been carried out and based on the alleged effects of the compound/composition.

Continuation of Box I.1

RULE 39.1(iv) PCT - Method for treatment of the human or animal body by therapy

(80)

JP 2005-507355 A 2006.3.2

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International Application No
PCT/EP 03/09525

Patent documents cited in search report		Publication date	Patent family number(s)	Publication date
EP 0528633	A	24-02-1993	AT 197943 T AU 658426 B2 AU 2101692 A CA 2076226 A1 CZ 9202517 A3 DE 69231513 D1 DE 69231513 T2 EP 0528633 A1 FI 923561 A HU 61732 A2 IE 922586 A1 JP 5286946 A MX 9204712 A1 NO 923197 A NZ 243950 A US 5254558 A ZA 9206147 A ZW 13292 A1	15-11-2000 13-08-1995 18-02-1993 16-02-1993 17-02-1993 23-11-2000 01-03-2001 24-02-1993 16-02-1993 01-03-1993 24-02-1993 02-11-1993 01-06-1993 16-02-1993 26-05-1995 19-10-1993 28-04-1993 05-05-1993
WO 0137837	A	31-05-2001	AU 1626001 A EP 1248624 A1 JP 2003517471 T NO 0137837 A1	04-06-2001 16-10-2002 27-05-2003 31-05-2001
US 5532366	A	02-07-1996	AT 171191 T AU 669545 B2 AU 4507893 A CA 2139421 A1 DE 69321121 D1 DE 69321121 T2 EP 0649432 A1 FI 946202 A NO 9401455 A1 HU 68543 A2 JP 7508748 T NO 945091 A	15-10-1998 13-06-1998 31-01-1994 20-01-1994 22-10-1998 04-03-1999 26-04-1995 26-01-1995 20-01-1994 28-06-1995 28-09-1995 16-02-1995

Form PCT/ISA/21 (Rev. 12/2000) (24/10/2002)

フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード(参考)
A 61 P 9/04 (2006.01)	A 61 P 9/04	
A 61 P 9/10 (2006.01)	A 61 P 9/10	
A 61 P 11/00 (2006.01)	A 61 P 11/00	
A 61 P 29/00 (2006.01)	A 61 P 29/00	
A 61 P 43/00 (2006.01)	A 61 P 43/00	1 1 1
C 07 D 401/04 (2006.01)	C 07 D 401/04	
C 07 D 401/06 (2006.01)	C 07 D 401/06	
C 07 D 401/12 (2006.01)	C 07 D 401/12	
C 07 D 403/06 (2006.01)	C 07 D 403/06	
C 07 D 403/12 (2006.01)	C 07 D 403/12	
C 07 D 405/12 (2006.01)	C 07 D 405/12	
C 07 D 413/04 (2006.01)	C 07 D 413/04	
C 07 D 417/04 (2006.01)	C 07 D 417/04	
	C 07 M 7/00	

(31)指定国 AP(GH,GM,KE,LS,MN,MZ,SD,SL,S2,TG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,MD,RU,TJ,TM),EP(AT, BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HU,IE,IT,LU,MC,NL,PT,RO,SE,SI,SK,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA, GN,GQ,QW,ML,NR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BR,BY,BZ,CA,CH,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DZ, EC,EE,ES,FI,GB,JO,GE,CH,CM,HR,HU,ID,IL,IN,IS,JP,KE,KG,KP,KR,KZ,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LV,MA,MD,MG,MK,MN,MW,MX,NZ,NI,NG,NZ,CM,PG,PH,PL,PT,RO,RU,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SY,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VC,VN,YU,ZA,ZM,ZW

(74)代理人 106033356

弁理士 柴田 康夫

(72)発明者 ハイケ・ギーレンヘルトヴィッヒ

ドイツ連邦共和国デー-40789モンハイム、クライレーヴァルドフーシュトラーセ23番

(72)発明者 フォルクハルト・ミンージャン・リ

ドイツ連邦共和国デー-42553フェルベルト、イム・ヴィーゼングルント40番

(72)発明者 ウルリッヒ・ローゼントレーテ

ドイツ連邦共和国デー-42349ヴッバータール、オーベレ・ルーテンベック6番

(72)発明者 カール一ハインツ・シュレンマー

ドイツ連邦共和国デー-42113ヴッバータール、ヴィルトシュタイヒ22ア一番

(72)発明者 スヴェン・アラハイリゲン

ドイツ連邦共和国デー-45259エッセン、ベックムスフェルト4番

(72)発明者 ライラ・テラン

ドイツ連邦共和国デー-42115ヴッバータール、ラーベンヴューア42番

(72)発明者 ラース・ベルファッカー

ドイツ連邦共和国デー-46047オーバーハウゼン、ヴァルターフレックス-シュトラーセ2

9番

(72)発明者 イェルク・ケルデニッヒ

ドイツ連邦共和国デー-42113ヴッバータール、ダマシケヴューア49番

(72)発明者 メアリー・エフ・フィッツジェラルド

英国オーエックス5・1キューピー、オックスフォードシャー、ヤーツトン、キャッシントン・ロード、ペイターノスター・コート2番

(72)発明者 ケビン・ナッシュ

英国シーエム23・3エスエイチ、ハートフォードシャー、ビショップス・ストートフォード、ポートランド・プレイス7番

(82)

JP 2006-507355 A 2006.3.2

(72)発明者 バルバラ・アルブレヒト
ドイツ連邦共和国デー- 42489ヴュルフラー、ハイデシュトラーセ9番

(72)発明者 ディルク・モイラー
ドイツ連邦共和国デー- 50259ブルハイム、プラタネンヴェーク1ア一番

F ターム(参考) 4C063 AA01 BB03 BB04 BB08 CC29 CC41 CC58 CC62 CC75 DD04
DD12 DD25 DD29 EE01
4C086 AA01 AA02 AA03 AA04 BC42 BC60 BC71 BC73 BC84 CA02
CA07 CA08 CA09 CA10 CA12 CA16 MA01 MA04 MA05 MA13
MA17 MA23 MA28 MA31 MA35 MA37 MA41 MA43 MA44 MA52
MA55 MA56 MA59 MA63 MA66 MA14 ZA36 ZA59 ZB11 ZC20